

敦賀発電所2号炉 ボーリング柱状図の記事欄に係るご指摘への回答 補足説明資料1

平成30年調査会社報告書のうち
申請書に反映した10孔のボーリング柱状図記事欄の比較

令和2年10月5日
日本原子力発電株式会社

余白

■本資料は、平成30年に受領した調査会社報告書(委託期間:平成24年～30年)に含まれていて、平成27年11月の申請書の柱状図に反映した10孔について、柱状図記事欄の記載内容について比較を行ったものである。

■当該10孔のうち、5孔は平成24年に、5孔は平成27年にボーリング掘削を実施した。

- ・平成24年掘削の5孔については、平成27年の申請準備の時点では、調査会社において報告書を作成するための柱状図(報告書作成用柱状図)が作成されていた。
- ・平成27年掘削の5孔については、調査会社においてコア観察カードの作成が進められていた(報告書作成用柱状図は作成されていなかった)。

■今回、調査会社に保管されていた上記の報告書作成用柱状図とコア観察カードの記事欄を、申請書用柱状図の記事欄と比較を行い、変更内容・理由を整理した。

(注)

- ・平成27年掘削の5孔については、コア観察カードは文字が薄いことから、参考用に原文をワープロ変換したものを原文と合わせて掲載している。
- ・比較において確認された誤記等については、以下の注釈を付して示している。

※1: 誤記(今回の比較により新たに確認)

※2: 誤記(第865回審査会合資料2-2-2で確認済みの誤記)

※3: 申請書用柱状図で誤記が修正されているもの

※4: 第865回審査会合資料2-2-2の記載内容に修正が必要なもの。本資料の末尾に修正前と修正後の資料を添付した。

目次

掘削時期	No.	ボーリング孔名	頁
平成24年	1	H24-B8-21	補足1-1-1
	2	H24-B8-22	補足1-2-1
	3	H24-B11-1	補足1-3-1
	4	H24-B11-2	補足1-4-1
	5	H24-B14-2	補足1-5-1
平成27年	6	H27-B-1	補足1-6-1
	7	H27-B-2	補足1-7-1
	8	H27-B-3	補足1-8-1
	9	H27-B-4	補足1-9-1
	10	H27-D5-1	補足1-10-1

第865回審査会合資料2-2-2の修正箇所

補足1-11-1

■ 報告書作成用柱状図およびコア観察カードで用いている記号の凡例を以下に示す。

・硬軟

A _g	極めて硬質。ハンマーで澄んだ金属音がする。
B _g	硬質。ハンマーで金属音がする。
C _g	中硬質。ハンマーで多少濁った音がする。
D _g	軟質。ハンマーで濁音がする。
E _g	極めて軟質。ハンマーで著しく濁った音がする。

・コア形状

I _g	50cm以上の長柱状
II _g	20cm以上50cm未満の長柱状
III _g	10cm以上20cm未満の柱状
IV _g	3cm以上10cm未満の岩片状～短柱状
V _g	1cm以上3cm未満の岩片状
VI _g	1cm未満の土砂状

・割れ目の状態

a _g	密着, 新鮮
b _g	酸化鉄付着
c _g	細粒物質を挟む。
d _g	割れ目として認識できない。

・風化

α	非常に新鮮である。造岩鉱物の変質はまったくない。
β	新鮮である。有色鉱物の周辺に赤褐色化がある。長石の変質はない。
γ	弱風化している。有色鉱物の酸化汚染がある。長石の部分的な変質(白色化)がある。
δ	風化している。有色鉱物が黄金色あるいは周辺が褐色粘土化している。長石の大部分が変質している。
ε	強風化している。石英および一部の長石を除きほとんど変質し原岩組織は失われている。

・変質

1	非変質	肉眼的に変質鉱物の存在が認められないもの。
2	弱変質	原岩組織を完全に残し、変質程度(脱色)が低いもの。あるいは非変質部の割合が高いもの(肉眼で50%以上)。
3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判定できるが、原岩組織を明らかに残し、原岩判定が容易なもの。又は、非変質部を残すもの及び網状変質部。
4	強変質	構成鉱物、岩片等が変質鉱物で完全置換され、原岩組織を全く～殆ど残さないもの。

・岩級区分

割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ				
		A _g	B _g	C _g	D _g	E _g
a _g	I _g	B'	-	-	-	-
	II _g	B'	C _H '	-	-	-
	III _g	-	C _H '	-	-	-
	IV _g	-	-	-	-	-
	V _g	-	-	-	-	-
	VI _g	-	-	-	-	-
b _g	I _g	B'	B'	C _M '	C _L '	-
	II _g	C _H '	C _H '	C _M '	C _L '	-
	III _g	C _H '	C _H '	C _M '	C _L '	-
	IV _g	-	C _M '	C _M '	C _L '	-
	V _g	-	C _L '	C _L '	C _L '	-
	VI _g	-	-	-	-	-
c _g	I _g	-	C _H '	C _M '	C _L '	D'
	II _g	-	C _M '	C _M '	C _L '	D'
	III _g	-	C _M '	C _M '	C _L '	D'
	IV _g	-	C _M '	C _L '	C _L '	D'
	V _g	-	C _L '	C _L '	C _L '	D'
	VI _g	-	-	-	D'	D'
d _g	I _g	-	-	-	-	-
	II _g	-	-	-	-	-
	III _g	-	-	-	-	-
	IV _g	-	-	-	-	-
	V _g	-	-	-	-	-
	VI _g	-	-	-	D'	D'

・破碎度区分

Hc-1	粘土及びシルトを主体とし、少量の砂及び礫を伴う。粘土化が進み全体に軟質化している。
Hc-2	粘土及びシルトの基質中に礫状ないしレンズ状の岩片を含む。基質及び礫は粘土化が進み軟質化している。
Hb	礫を多く含み、基質は粘土、シルト及び砂からなる。基質は粘土化が進み軟質化しているが、礫は比較的新鮮で硬い。
Hj	粘土及びシルトを挟む割れ目が発達し、全体に脆い。岩片は比較的新鮮で硬いものから、やや粘土化が進み指圧で砂状化するものまである。網目状の粘土細脈が発達することがある。

■柱状図の記載について

申請書柱状図については以下の方針で記載している。

(全体)

- ◆ 層相名, 岩相名と分布深度を記載。
- ◆ 岩石の構成鉱物, 石基, 斑晶, 粒径等については, 一般的な岩相の特徴であることから基本的に記載しないこととし, 特に目立つ区間(敦賀サイトに広く分布する岩相と異なる岩相の箇所等)について記載。
- ◆ マンガン汚染, 割れ目沿いの変色等の破碎帯評価に直接関係しない補足的な情報については記載しない。
- ◆ 割れ目の発達程度, コアの硬軟, 岩盤の劣化の程度等については, RQD, 最大コア長, 岩級区分等に含めて表現する。
- ◆ 岩盤中の挟在物のうち, その連続性・直線性や周囲の岩盤の劣化, 明瞭なせん断構造・変形構造等の破碎構造に関連するような特徴が見られないものについては, 風化・変質によるものや細粒物質が割れ目へ流入したもの等であると判断し記載しない。

(破碎部)

- ◆ せん断構造・変形構造等の破碎構造が認められるものについては, 破碎部として漏れなく記載。
- ◆ 破碎部については, 破碎帯評価に重要と考えた以下の情報を記載。
 - ✓ 破碎部の破碎部内物質の粒度と色調を範囲で記載(例: 灰白色～黄橙色の粘土状～粘土混じり礫状)。
 - ✓ 破碎部のうち, 粘土・シルト幅を記載。
 - ✓ 連続性評価等で用いるBHTVで得られた走向・傾斜, 薄片観察で得られた変位センスを記載。
 - ✓ 断層岩区分は申請書時点では, カタクレーサイト主体であると判断した一部の破碎部について記載。
- ◆ 平成24年掘削の5孔(H24-B8-21,22 , H24-B11-1,2, H24-B14-2)については, 申請書提出前に地盤安定性解析用の物性値設定を目的とした破碎部の詳細観察を実施しており, この詳細観察で得られた性状, 色調, 粘土の累計幅を記載。

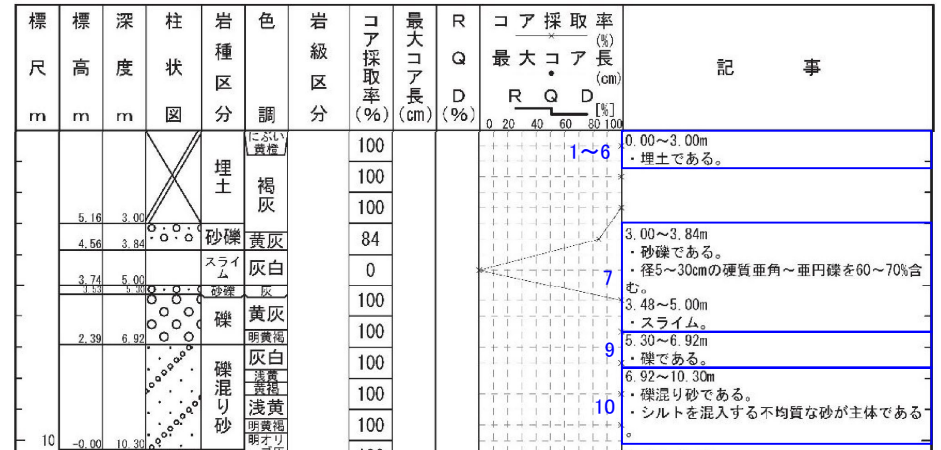
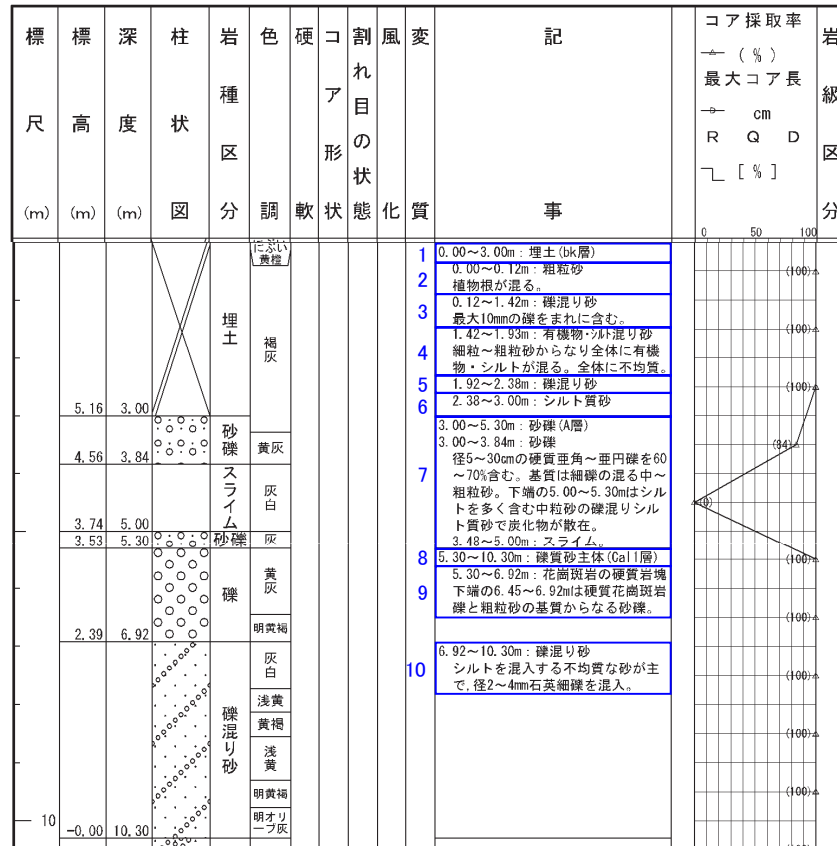
余白

H24-B8-21

余白

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

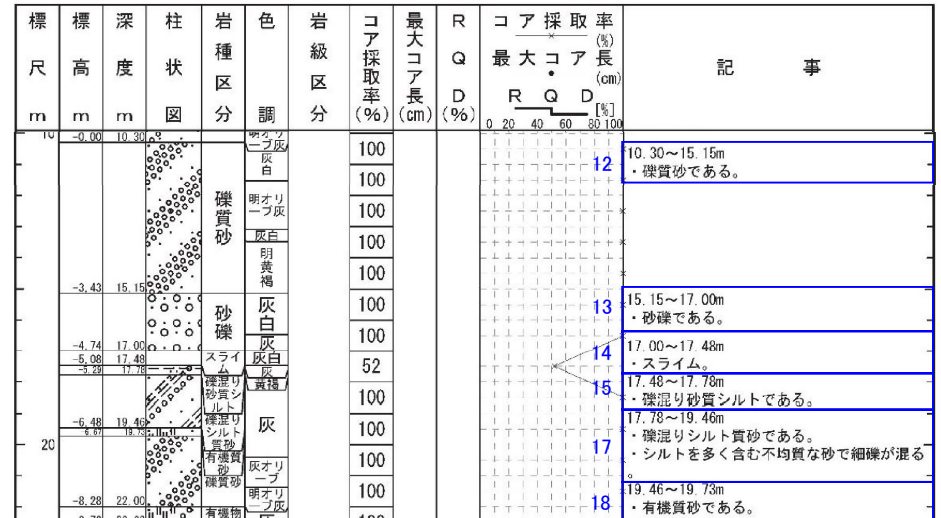
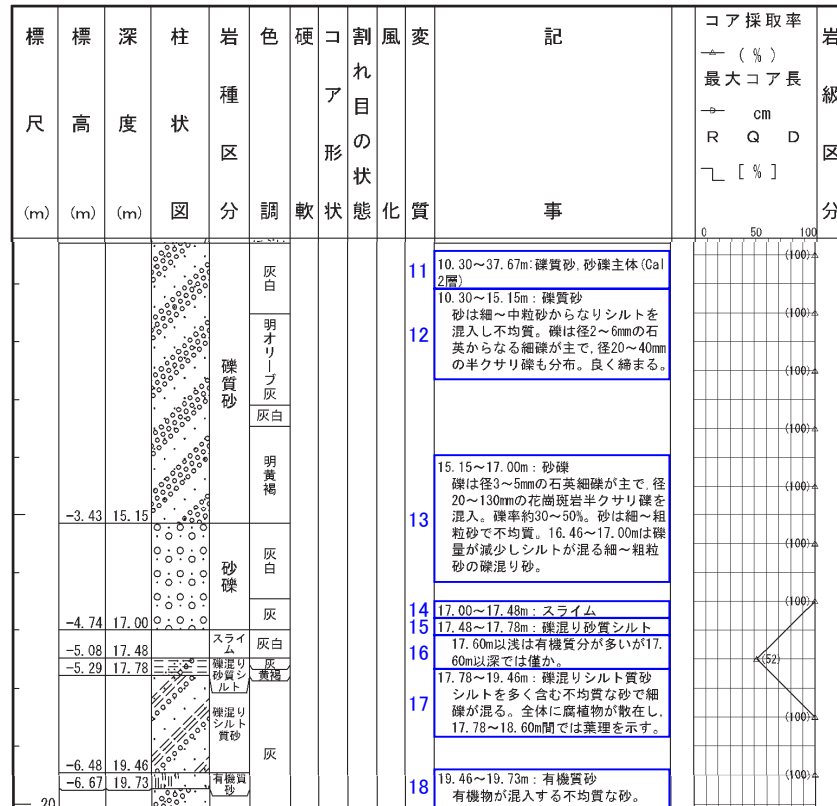
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図 (H26年9月) ⇒ 申請書用柱状図
1~6	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
7	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく、目立つことから、礫の特徴として、礫径、円磨度、礫率を記載。
8	・区間毎の性状を個別に記載しているため、礫質砂主体とのまとめ書きについては削除。
9	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
10	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、下位層と区別できる特徴として、シルトの混入について記載。

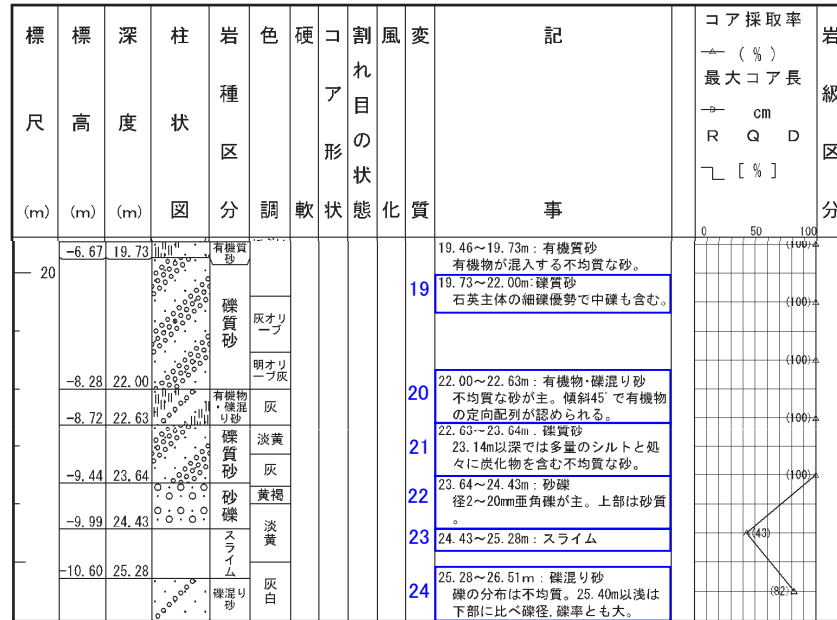
報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図

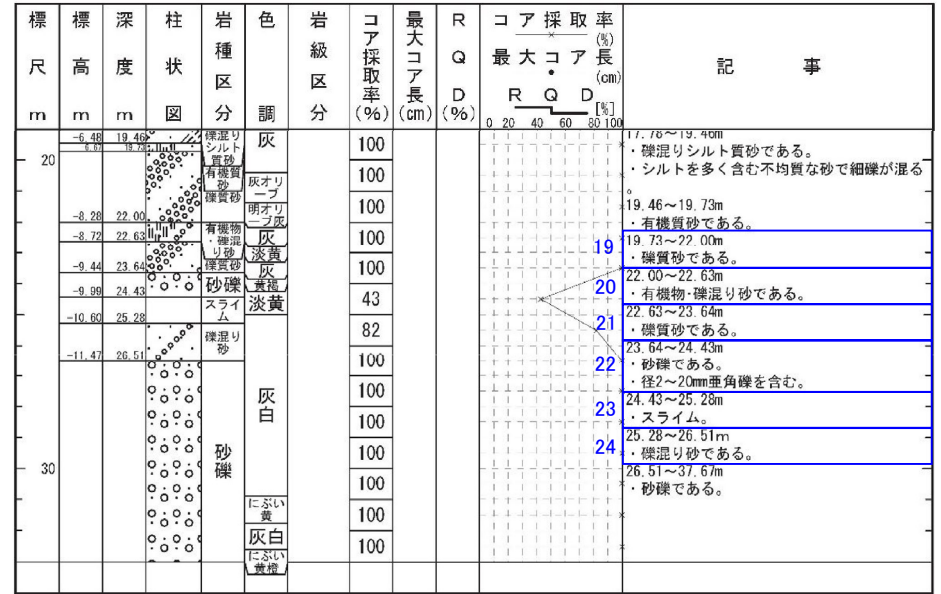


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
11	・区間毎の性状を個別に記載しているため、礫質砂、砂礫主体とのまとめ書きは削除。
12	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
13	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
14	・変更なし
15, 16	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
17	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、下位層と区別できる特徴として、シルトと礫の含有について記載。 ・葉理については、不均質に含まれる有機物が帯状を呈したものであり、明瞭ではないため削除。
18	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)



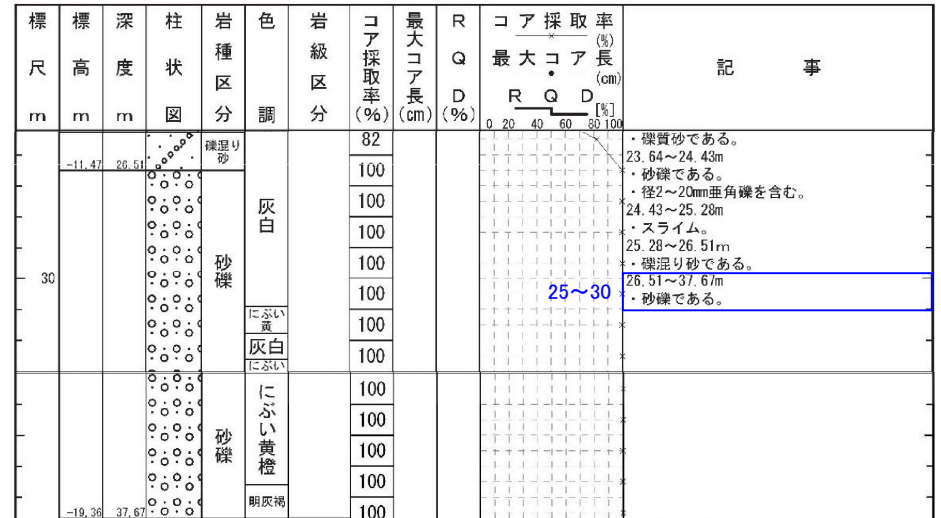
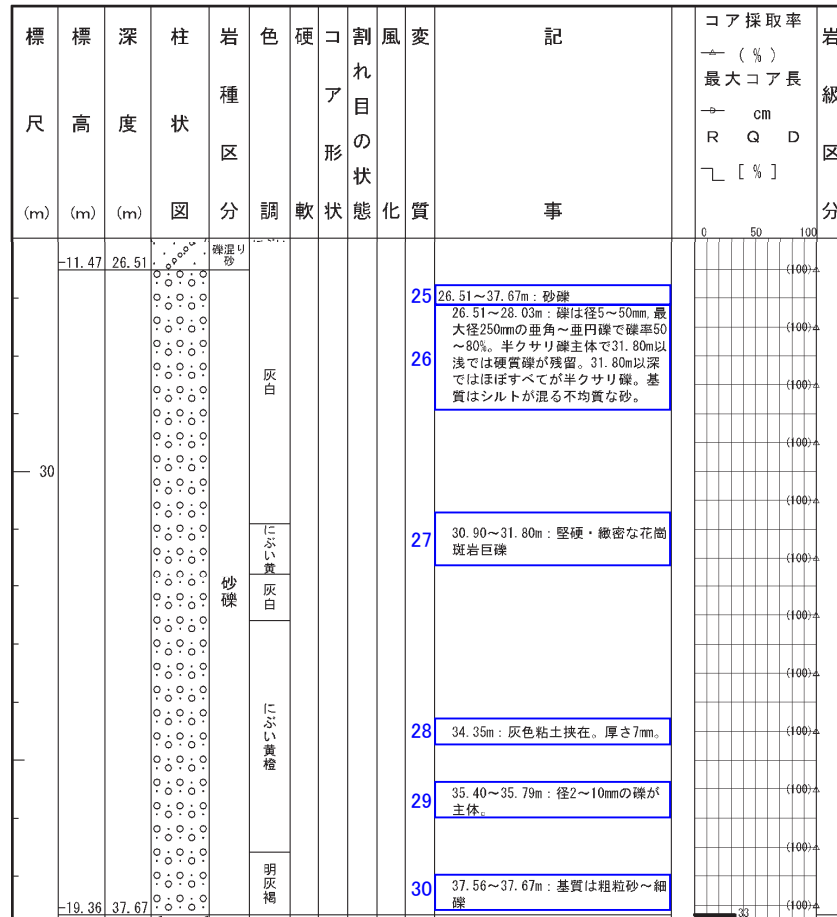
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
19	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
20	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・有機物の定向配列については、周囲の層相境界と同様の方向に記列していることから削除。
21	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
22	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく、目立つことから、礫の特徴として、礫径、円磨度を記載。
23	・変更なし
24	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

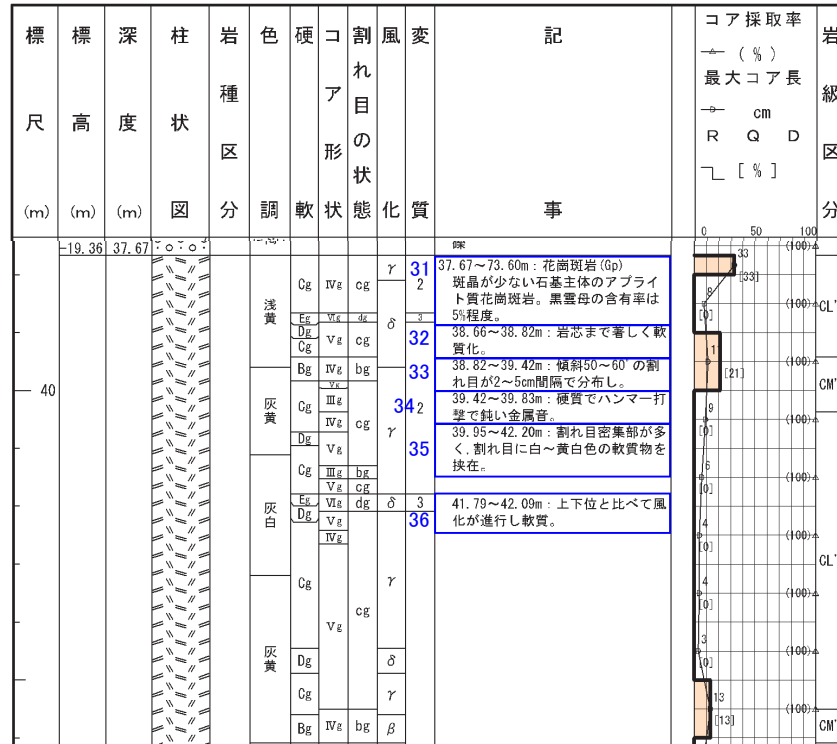
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
25~30	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図

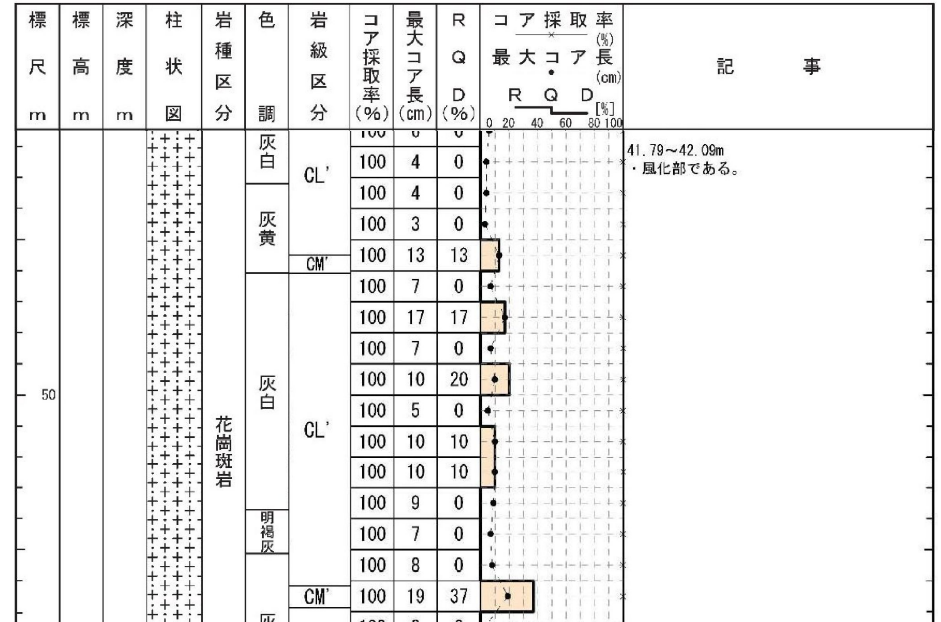
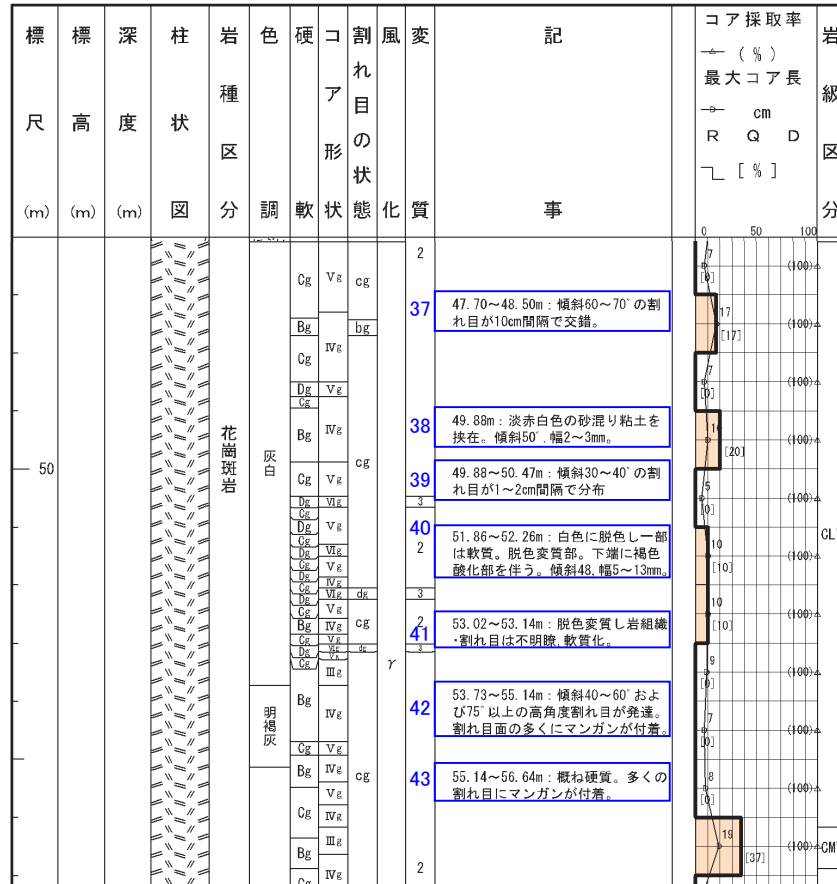


標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	記事
	-19.36	37.67	○ ○ ○ ○	明灰褐			100						
			+	浅黄	CL'	100	8	0				31	37.67~73.60m ・花崗斑岩である。
			+	灰黄	CM'	100	11	21					
			+	灰白		100	9	0					
			+	灰白	CL'	100	6	0					
			+	灰黄		100	4	0				36	41.79~42.09m ・風化部である。

記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
31	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
32	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
33	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
34	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
35	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目に軟質物を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
36	・“風化”欄に基づき風化部と記載。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

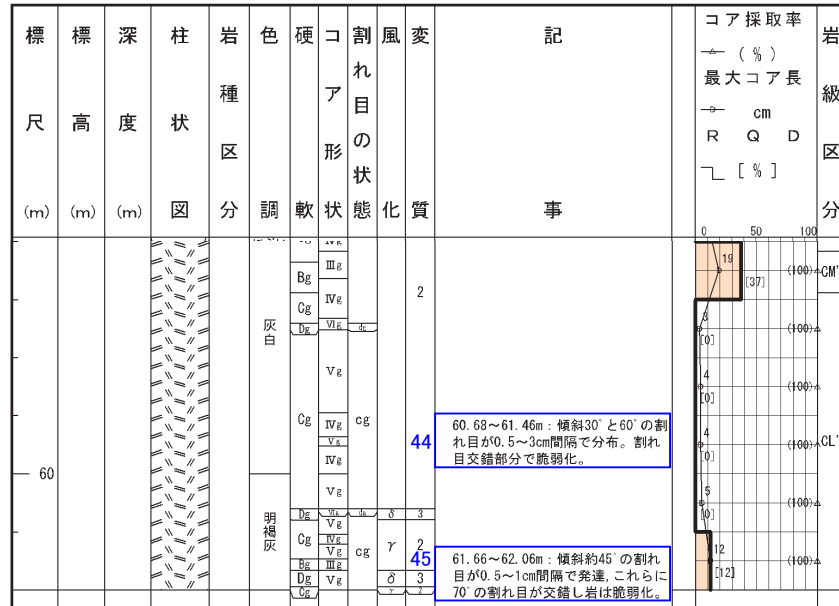
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
37	・割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
38	・粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
39	・割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
40, 41	・軟質化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
42	・割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 ・マンガン汚染については、補足的なものであるため削除。
43	・硬軟については、良好な岩盤からなる区間内における相対的なものであるため削除。 ・マンガン汚染については、補足的なものであるため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

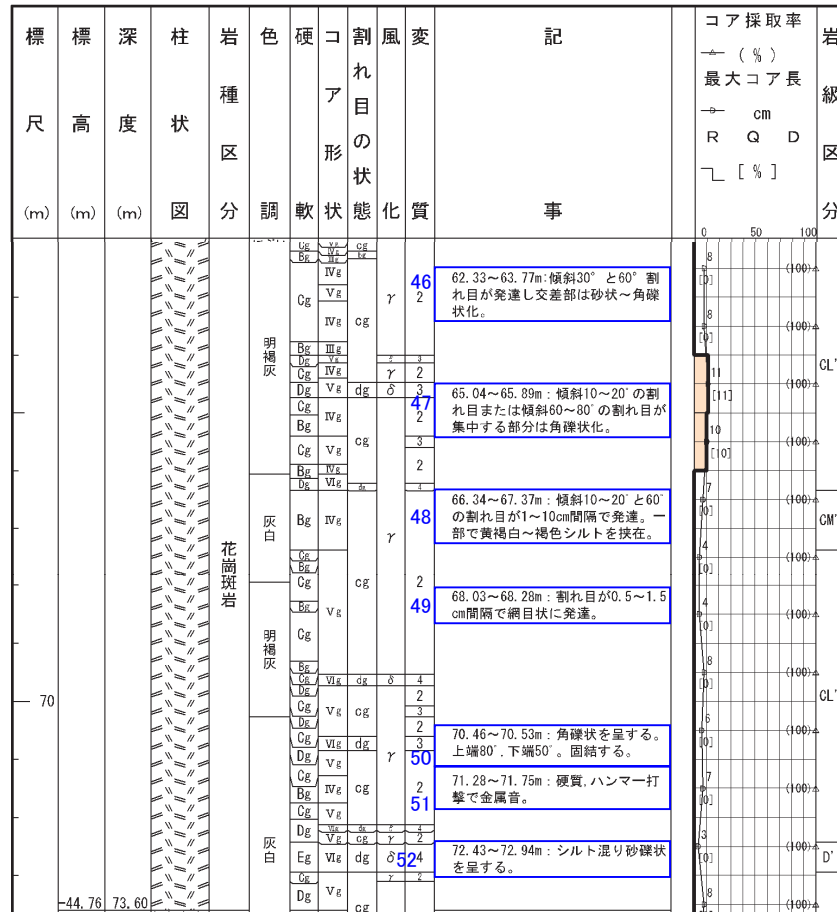
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図 (H26年9月) ⇒ 申請書用柱状図
44, 45	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目の発達や脆弱性の程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 ・一部で砂状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
46, 47	・割れ目の発達や脆弱性の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部で砂状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
48	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 ・割れ目にシルトを挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
49	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
50	・境界の傾斜については、ばらつきがあるため削除。 ・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
51	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
52	・シルト混じり砂礫状を呈するが、シルトに明瞭かつ系統的な配列が認められないため削除。

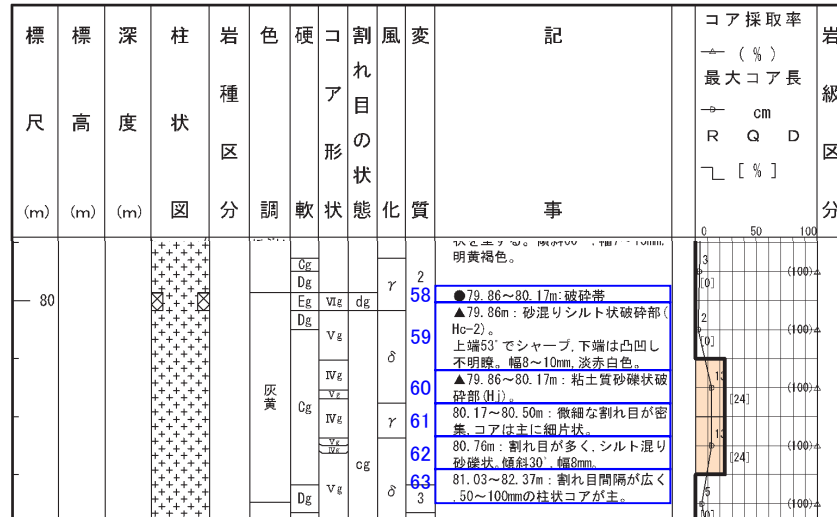
報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図

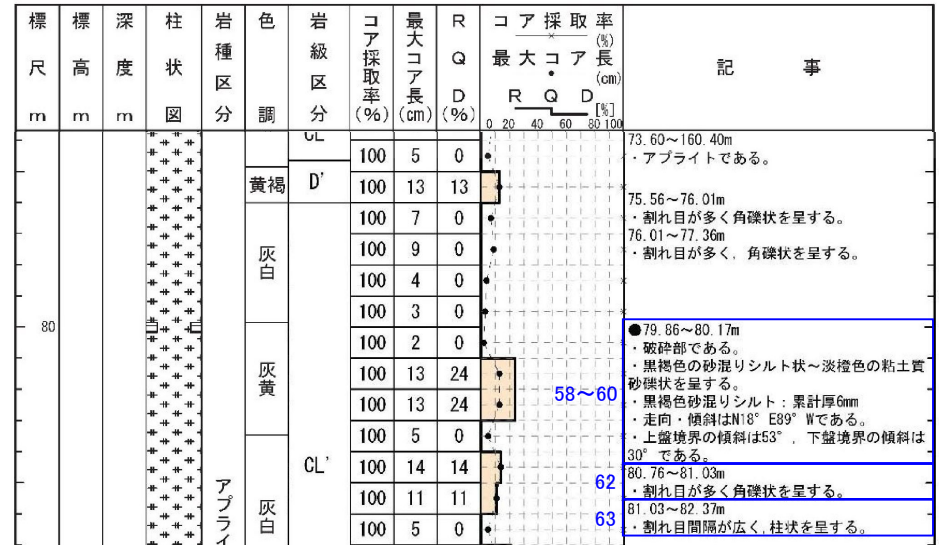


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
53	・境界の明瞭さについては、漸移的であるため削除。
54	・砂礫状については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
55	・割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 ・部分的な土砂化~細粒化については、直線性に乏しく、同系統の劣化が認められないことから削除。
56	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
57	・砂・礫混じりシルト状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)



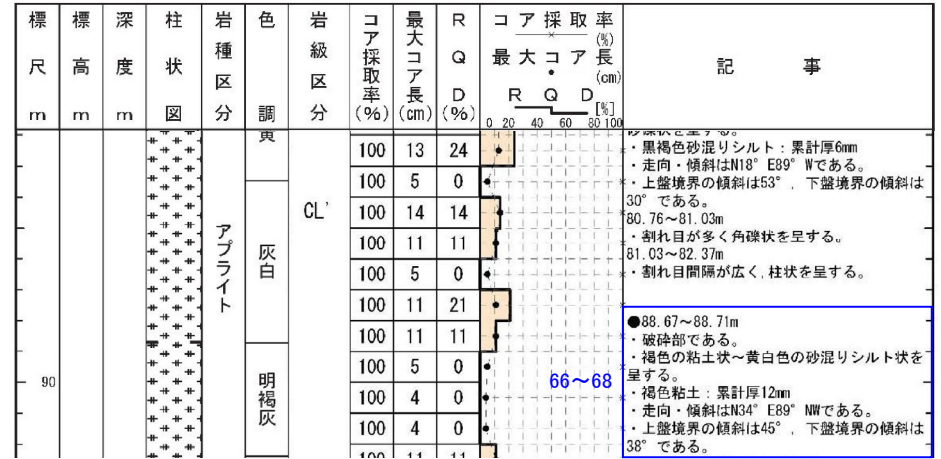
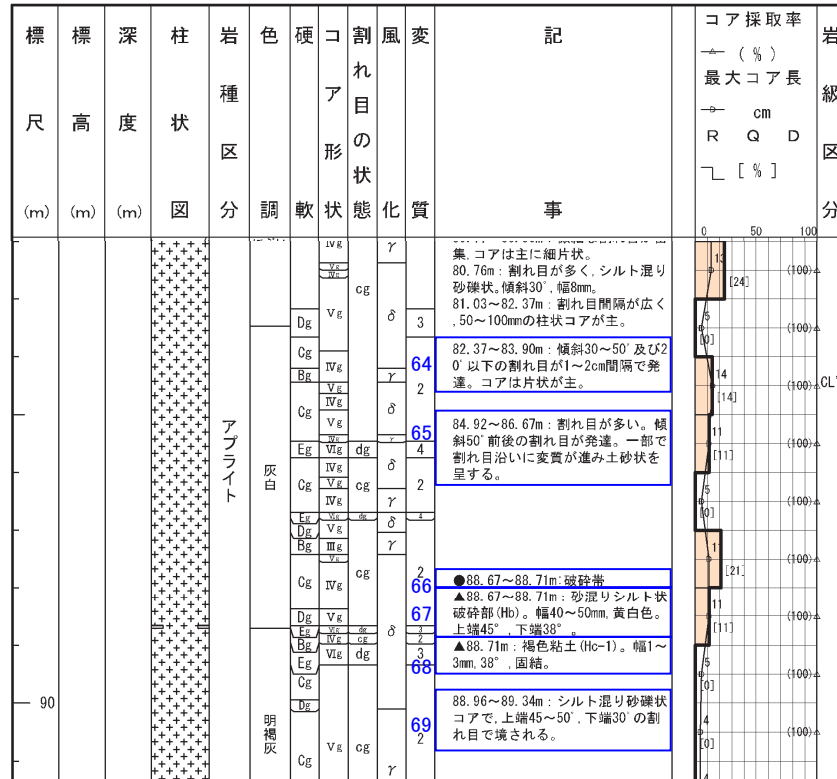
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
58~60	<ul style="list-style-type: none"> 色調、粒度、累計幅について、申請前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破砕部の見かけの傾斜については補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。 下端傾斜 記載無し→30° ※1 境界の直線性については、申請書では記載しないこととしているため削除。
61	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
62	・部分的にシルト混じり砂礫状を呈し、割れ目が発達する区間の下端深度を“コア形状”欄から読み取り、角礫状を呈すると記載。
63	・50~100mmとの記載については、割れ目間隔をRQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。

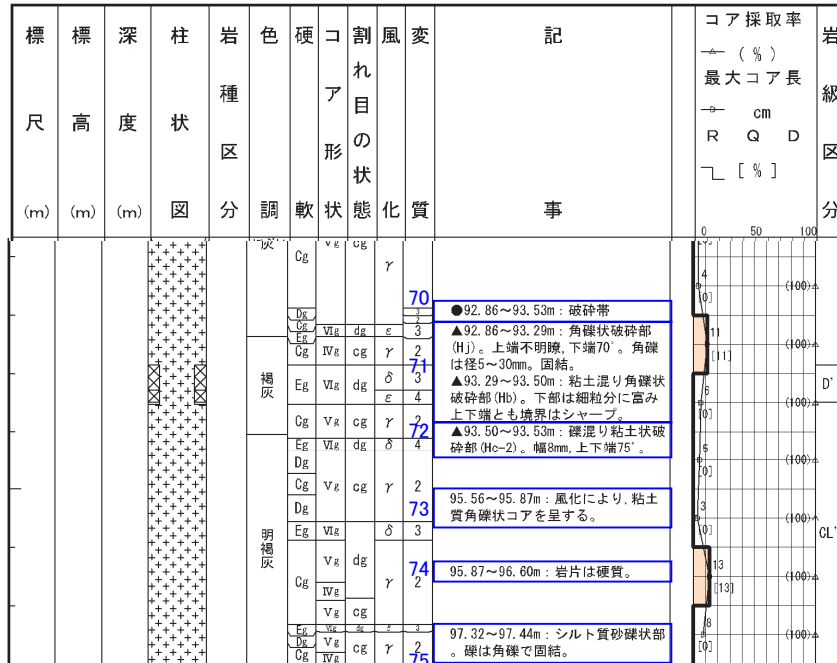
報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図

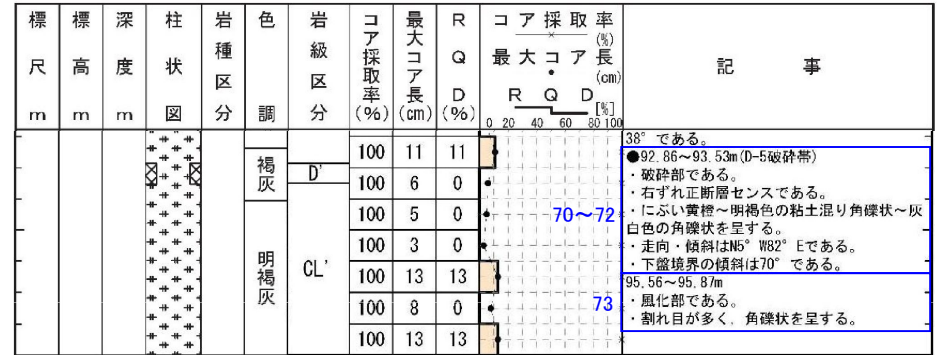


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
64	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
65	・割れ目が一部で土砂状を呈するが、いずれも掘削時の機械割れと判断し削除。
66~68	・累計幅について、申請前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・境界の傾斜について、報告書作成用柱状図に基づき記載。 ・硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
69	・砂礫状については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)



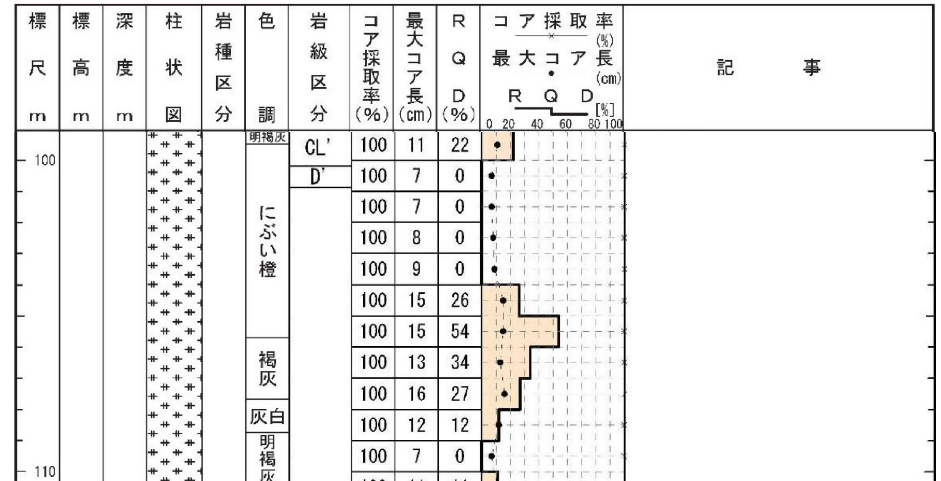
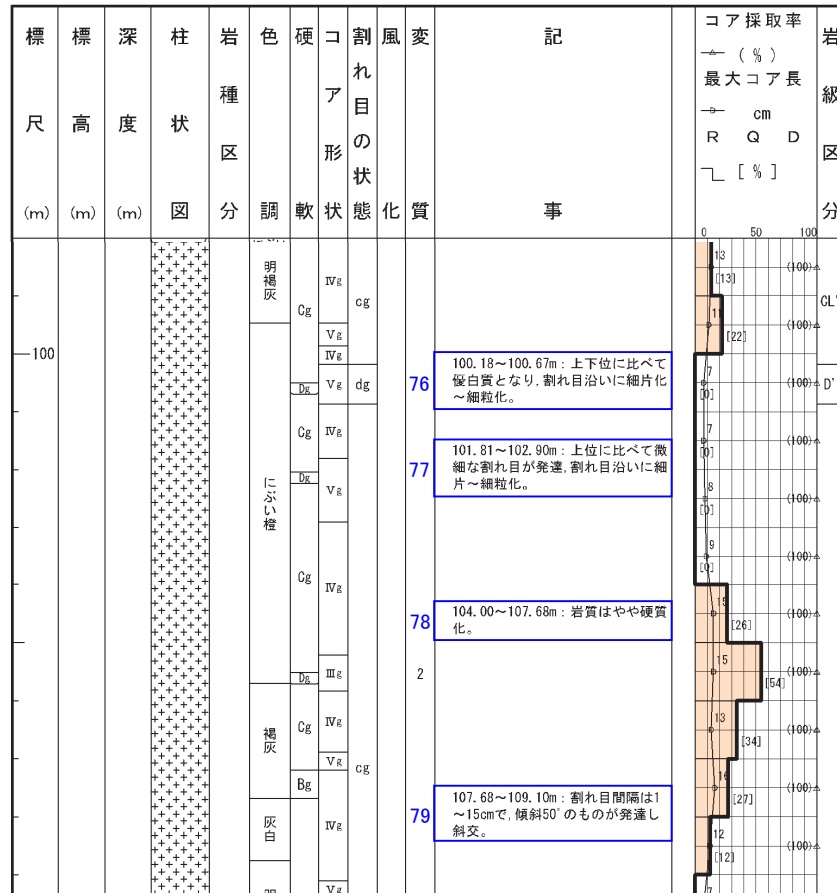
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
70~72	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 申請前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破碎部の再観察の結果に基づき、にぶい黄橙～明褐色の粘土混じり角礫状と記載。 “色調”欄に基づき記載。 灰白色は、褐灰色の誤り。※1 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破碎部の見かけの傾斜については補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。 下盤境界の傾斜75° →70° ※1, ※4 角礫状部の粒径は補足的なものであるため、径5~30mmについては削除。 下部は細粒分に富みとの記載については、上部との境界が不明瞭であるため削除。 境界の粗さや硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。
73	<ul style="list-style-type: none"> 粘土質については、当該区間に不均質に含まれるものであるため削除。
74	<ul style="list-style-type: none"> 硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
75	<ul style="list-style-type: none"> 砂礫状を呈するが、直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

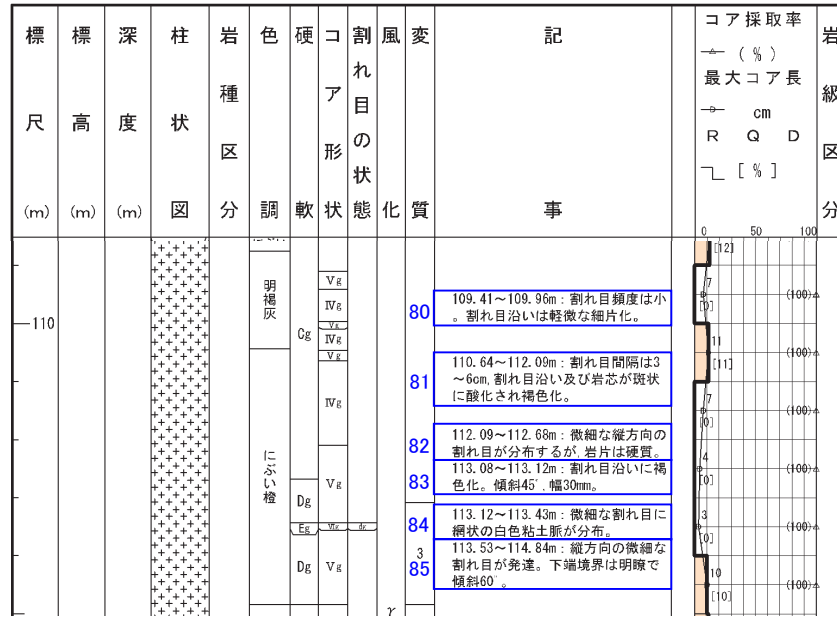
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
76, 77	・細片化～細粒化しているが、連続性や直線性に乏しいことから削除。
78	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
79	・割れ目の発達の程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

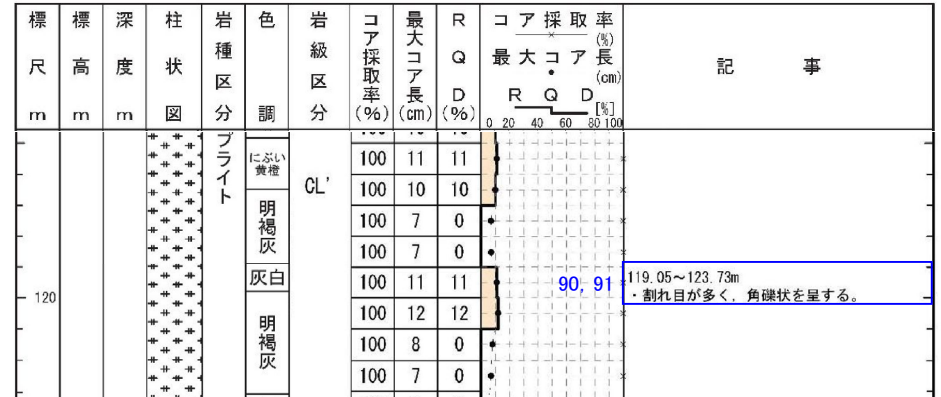
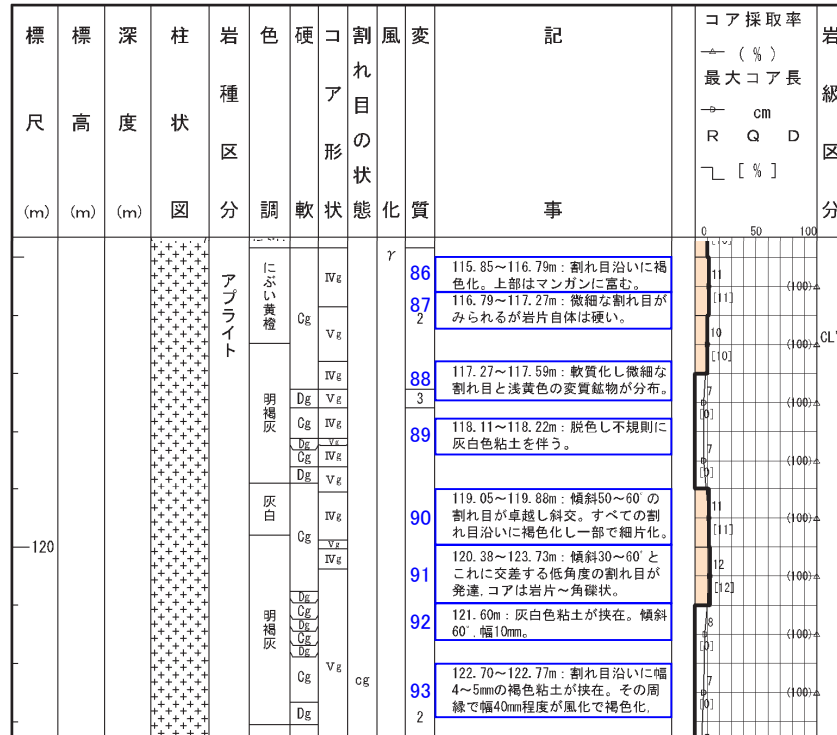
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
80	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
81	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・色調については、補足的なものであるため削除。
82	・硬軟や割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
83	・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。
84	・一部に粘土を挟在するが、系統的でなく、連続性や直線性に乏しいことから削除。
85	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。

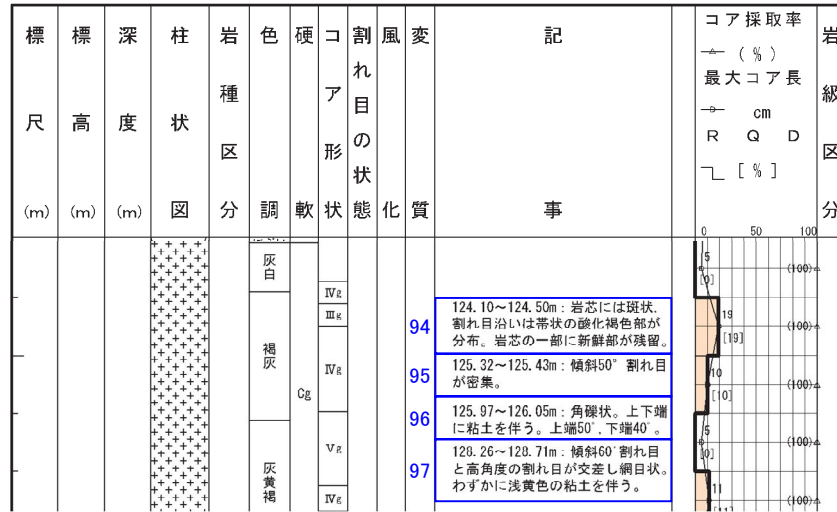
報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
86	・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。
87	・硬軟や割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
88	・硬軟や割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 ・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
89	・一部で粘土を挟在するが、連続性や直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
90, 91	・割れ目の発達については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 ・一部割れ目沿いで細片化しているが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
92	・割れ目に粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
93	・割れ目に粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)



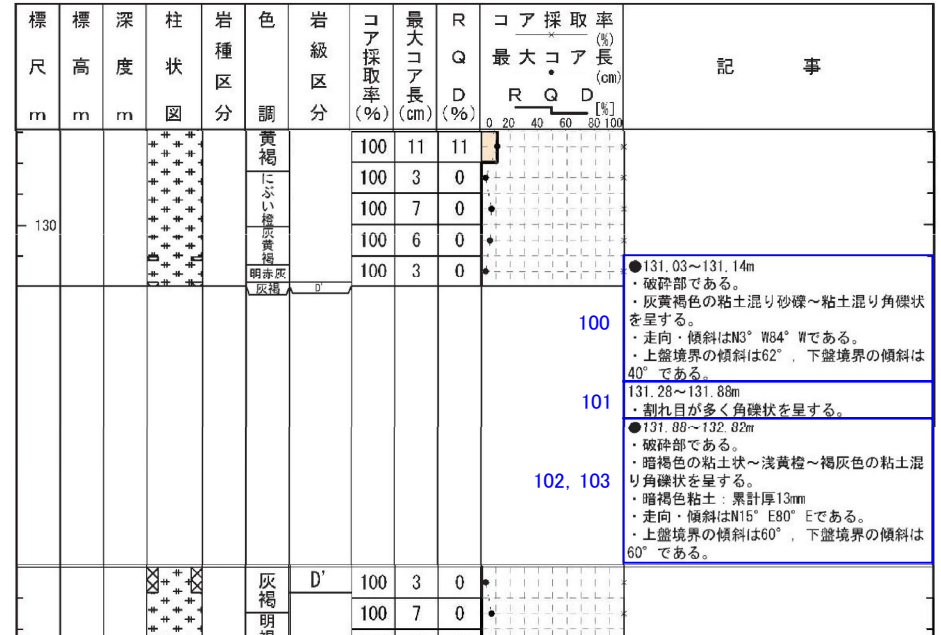
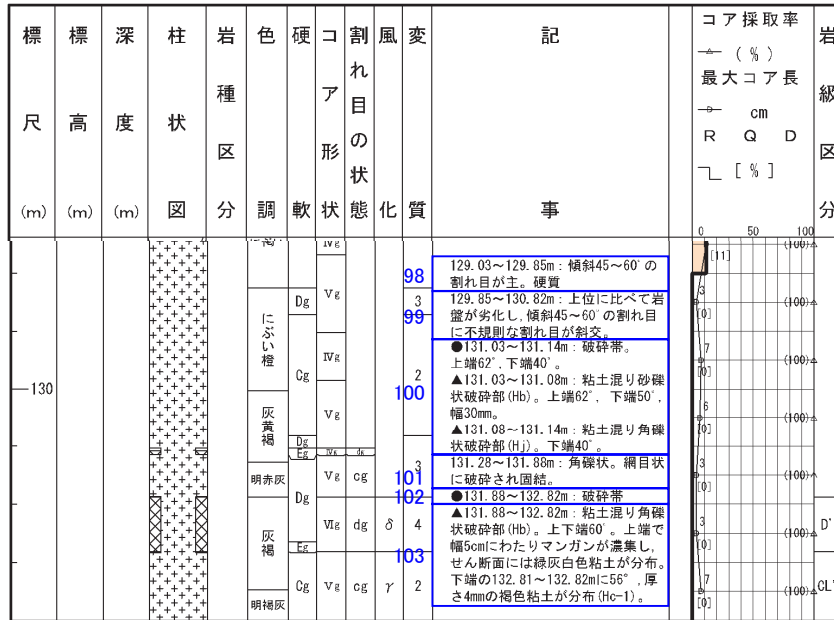
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
94	・色調については、補足的なものであるため削除。
95	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
96	・割れ目に挟在する粘土については、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
97	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目に粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

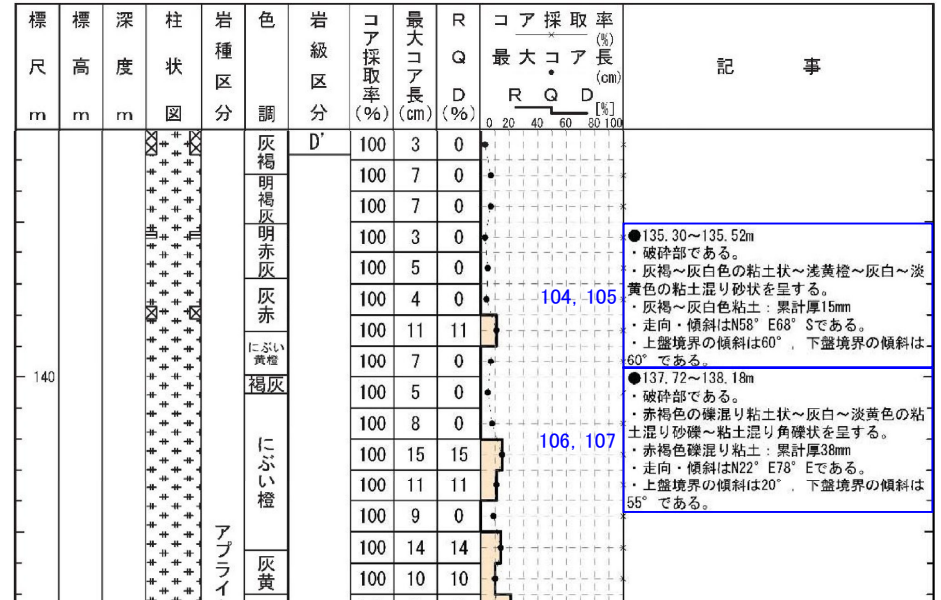
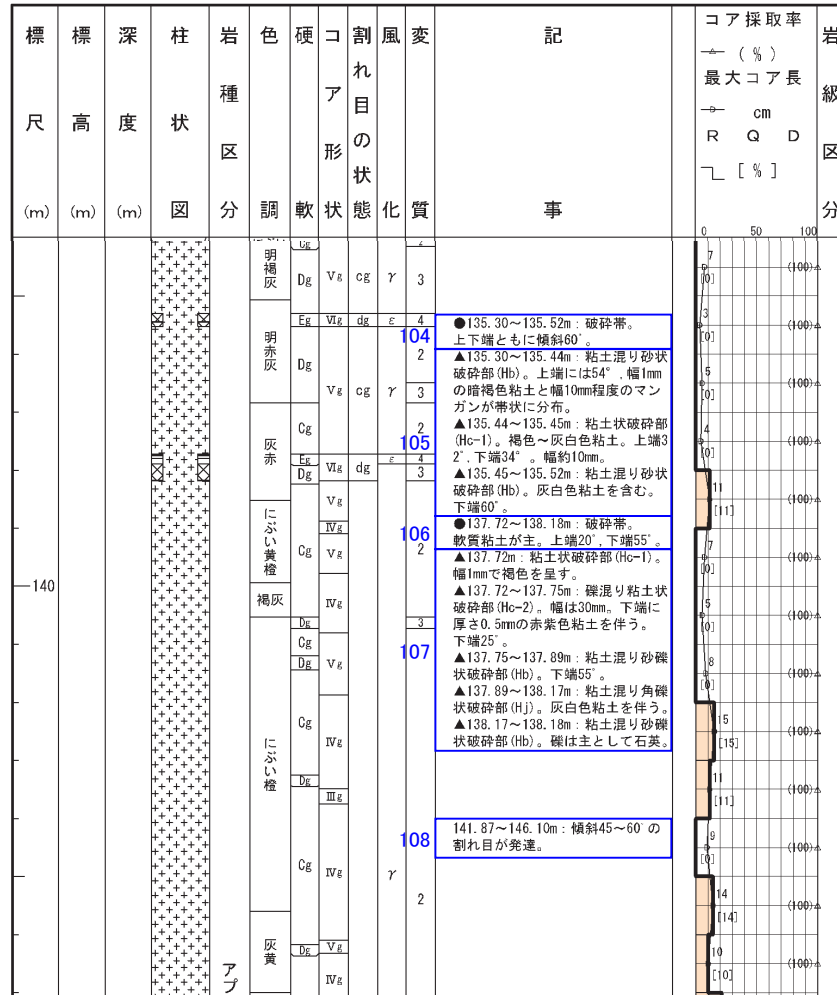
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
98	・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
99	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
100	・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・礫状部の幅については、記載しないこととしているため、粘土混り砂礫状部の幅については削除。 ・破砕部の見かけの傾斜については補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。
101	・網目状の破砕については、当該区間に系統的な網目がないことから削除。
102, 103	・色調、粒度、累計幅について、申請前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破砕部の再観察の結果に基づき記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・マンガンの濃集については、補足的なものであるため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

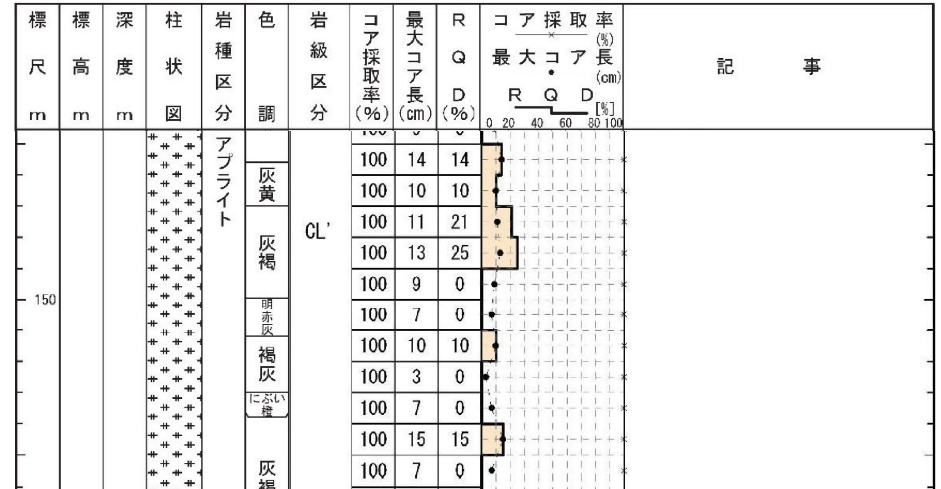
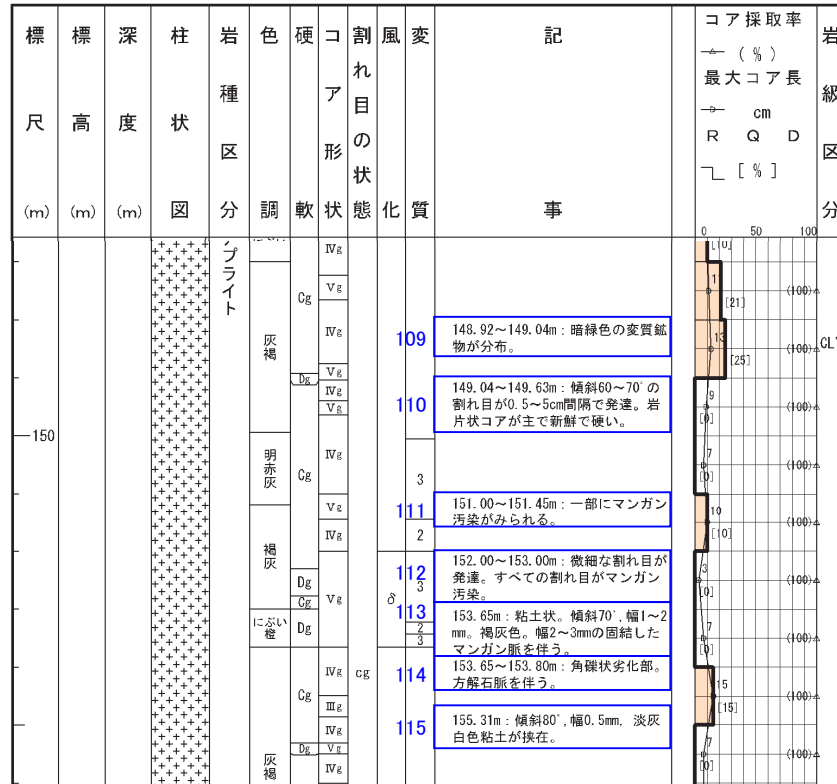
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
104, 105	<ul style="list-style-type: none"> ・色調、粒度、累計幅について、申請前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破碎部の再観察の結果に基づき記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破碎部の見かけの傾斜については補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。 ・マンガンが帯状に分布との記載については、補足的なものであるため削除。
106, 107	<ul style="list-style-type: none"> ・色調、粒度、累計幅について、申請前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破碎部の再観察の結果に基づき記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破碎部の見かけの傾斜については補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。 ・粘土混り砂礫状部の礫種については補足的なものであるため、礫は主として石英との記載については削除。
108	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

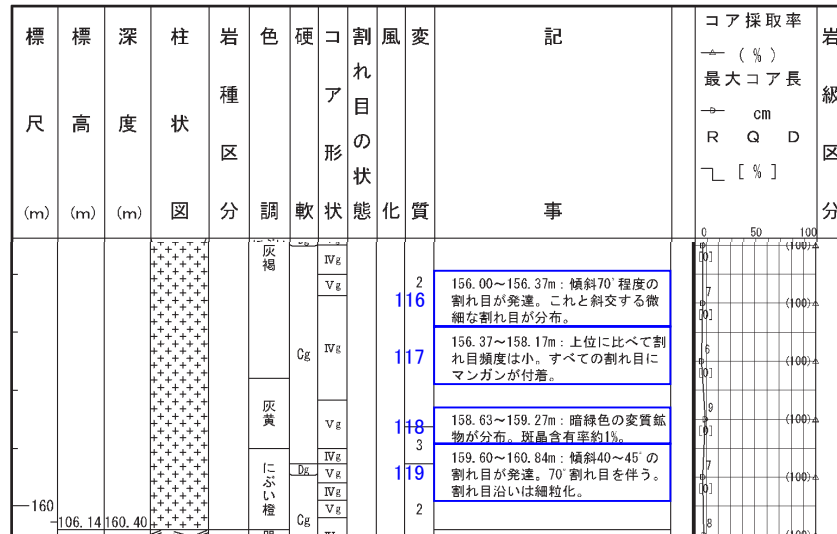
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
109	・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
110	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
111	・マンガン汚染については、補足的なものであるため削除。
112	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・マンガン汚染については、補足的なものであるため削除。
113, 114	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目に粘土を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・マンガン脈や方解石脈については、補足的なものであるため削除。
115	・割れ目に粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

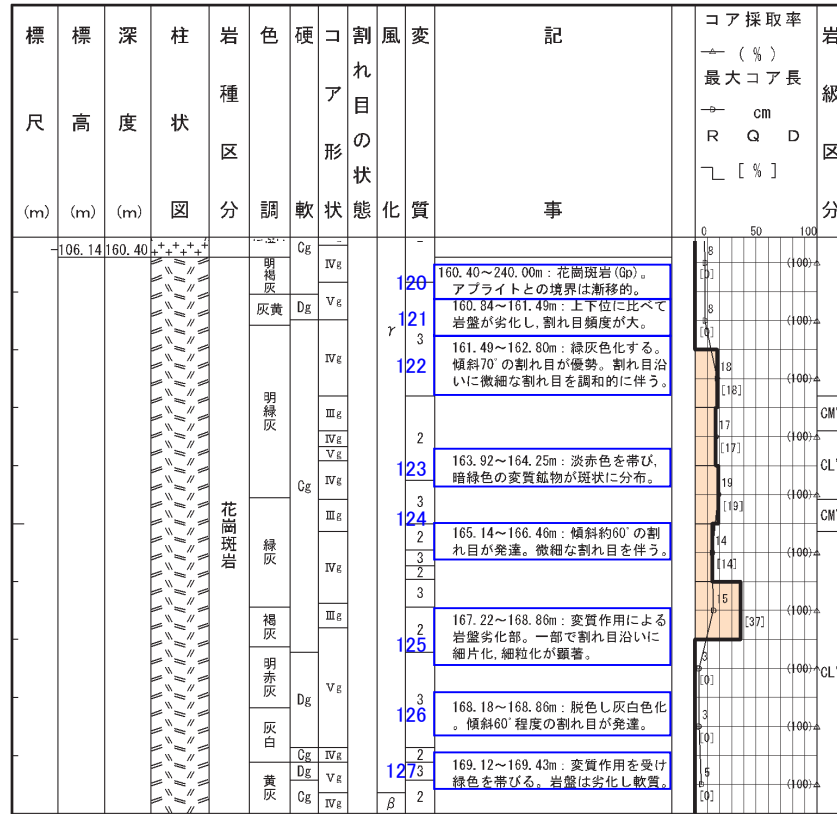
報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図

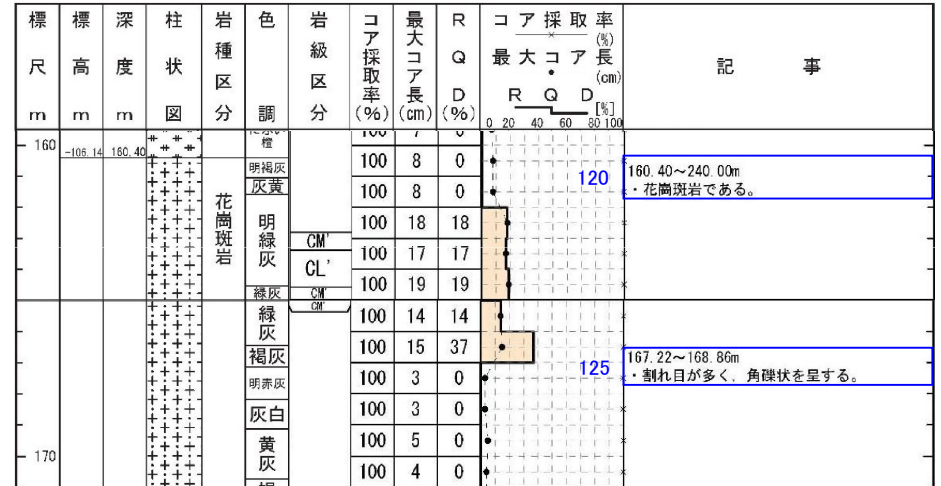


記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
116	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
117	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
118	・鉱物の晶出や斑晶の量については、補足的なものであるため削除。
119	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いに一部細粒化しているが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)



申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
120	・境界の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。
121	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
122	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・色調については、補足的なものであるため削除。
123	・色調や鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
124	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
125	・一部で細片化、細粒化しているが、連続性に乏しいことから削除。 ・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
126	・色調については、補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
127	・色調については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分
					黄灰	Cg	IVg	128 ²		170.51~170.66m: 割れ目及びその周辺が暗青灰色に変質。	4	(+00)+	
					褐灰	Dg		129		171.63~176.24m: 傾斜45~60°の割れ目が発達。割れ目交差部ではコアは細片化。岩片は比較的新鮮で硬質。	4	(+00)+	
					明褐灰		Vg	130 ²		174.21m: 傾斜50°の割れ目に暗緑灰色を呈する変質鉱物が付着。下盤側にも斑状で暗緑灰色鉱物が形成。	5	(+00)+	
					灰	Cg		131		176.24~177.20m: 上下位に比べて割れ目は少ない。	5	(+00)+	CL'
					灰		cg	132		177.20~177.66m: 脱色し割れ目はやや不明瞭。	8	(+00)+	
					緑灰	Dg		133 ³		178.30m: 灰白色粘土挟在。傾斜80°, 厚さ4mm。上端側は変質が強い。	9	(+00)+	
					灰	Cg		2		178.97~179.05m: 変質作用により岩盤が劣化し、下位に比べて軟質。	4	(+00)+	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
170					灰		100	4	0					
					褐灰	CL'	100	4	0					
					明褐灰		100	5	0					
					灰		100	4	0					
					緑灰		100	5	0					
					灰		100	8	0					
					灰白		100	4	0					
180					灰		100	3	0					

記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
128	・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。
129	・硬軟や割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部で割れ目沿いに細片化しているが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
130	・割れ目沿いの鉱物晶出については、補足的なものであるため削除。
131	・割れ目の発達の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
132	・割れ目の明瞭さについては、補足的なものであるため削除。
133	・粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図

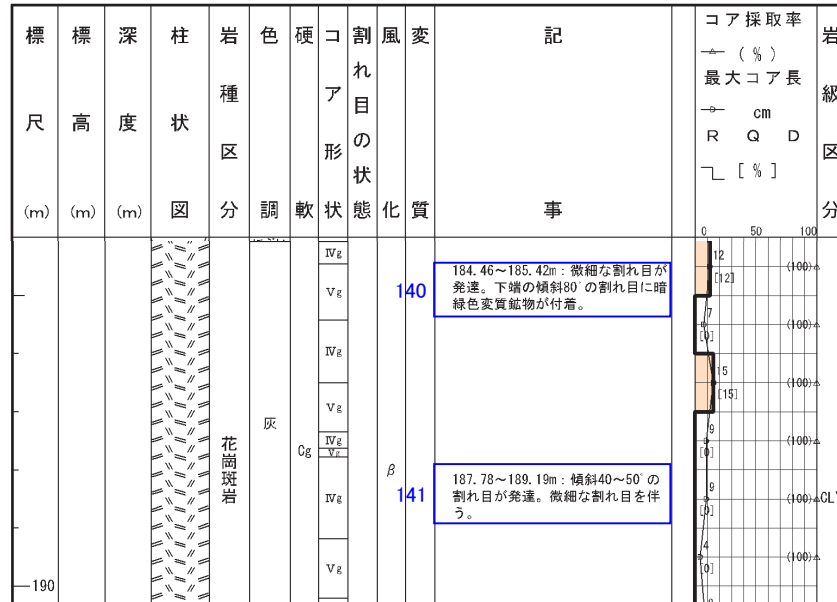
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分											
180					灰	Vg	cg	2			134	178.97~179.05m: 変質作用により岩盤が劣化し、下位に比べて軟質。	100	9	D'										
											135	179.05~180.55m: 微細な割れ目が発達。	100	4											
											136	180.55~180.70m: 礫混り砂状。割れ目は消滅し岩組織不明瞭。固結。	100	3											
											137	181.02~181.89m: 礫混り砂状。硬質岩片を含むが割れ目は消滅。一部で固結。	100	4											
											138	183.04~183.56m: 割れ目は少なく新鮮で硬質。	100	6											
											139	183.56m: 傾斜45°の割れ目に暗緑色の変質鉱物が付着。幅10.5mmの方解石脈が伴う。	100	9											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事	
180				花崗斑岩	緑灰	D'	100	9	0				183.04~183.56m ・割れ目は少なく、柱状を呈する。
							100	4	0				
							100	3	0				
							100	3	0				
							100	4	0				
							100	6	0				

記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
134	・軟質化しているが、連続性に乏しく、周囲の割れ目と差異が認められないため削除。
135	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
136	・礫混り砂状を呈するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
137	・礫混り砂状を呈するが、挟在物が幅狭く、直線性に乏しいことから削除。
138	・硬軟や割れ目の発達程度については、岩級区分で示しているため削除。 ・“コア形状”欄に基づき柱状と記載。
139	・割れ目沿いの鉱物の晶出や鉱物脈については、補足的なものであるため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

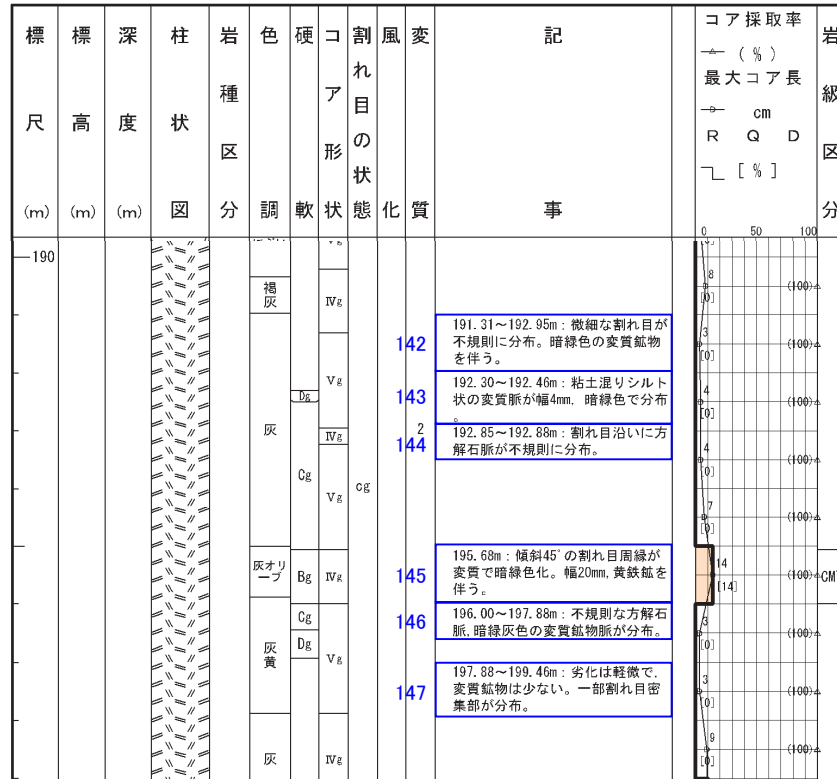
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
140	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
141	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

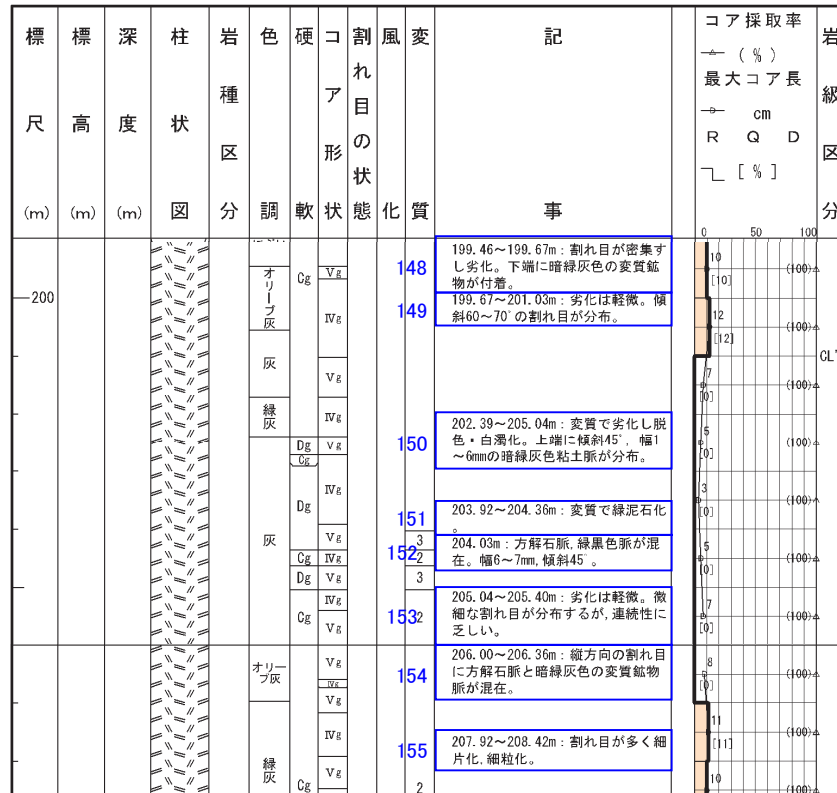
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図 (H26年9月) ⇒ 申請書用柱状図
142	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
143	<ul style="list-style-type: none"> 粘土混じりシルト状の変質脈が分布するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
144	<ul style="list-style-type: none"> 方解石脈については、補足的なものであるため削除。
145	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目沿いの変色や鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
146	<ul style="list-style-type: none"> 鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
147	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。

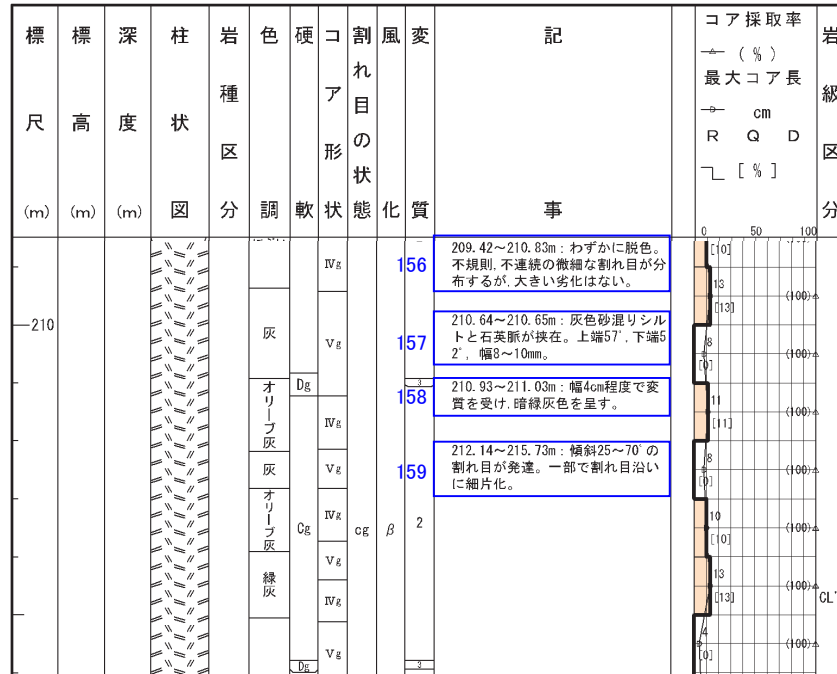
報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
148	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
149	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
150	・劣化程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部で粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
151	・表現の見直し(緑泥石化→緑色に変色)。
152	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
153	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
154	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
155	・細片化、細粒化については、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)



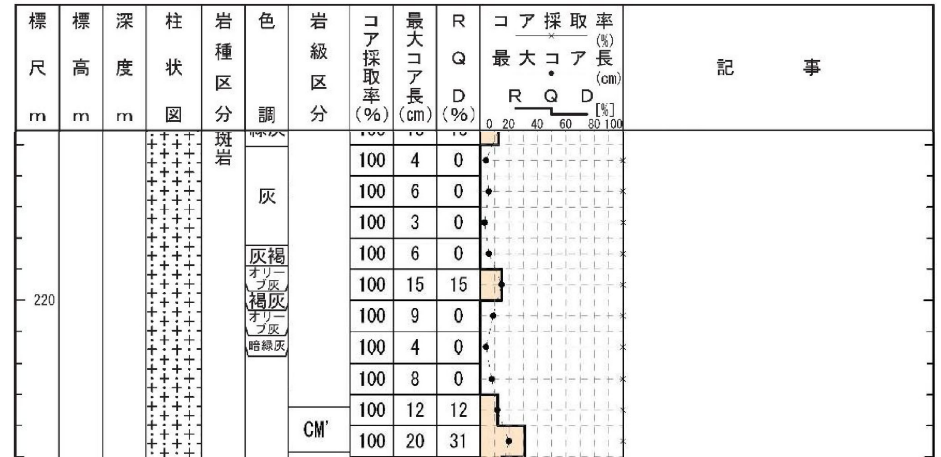
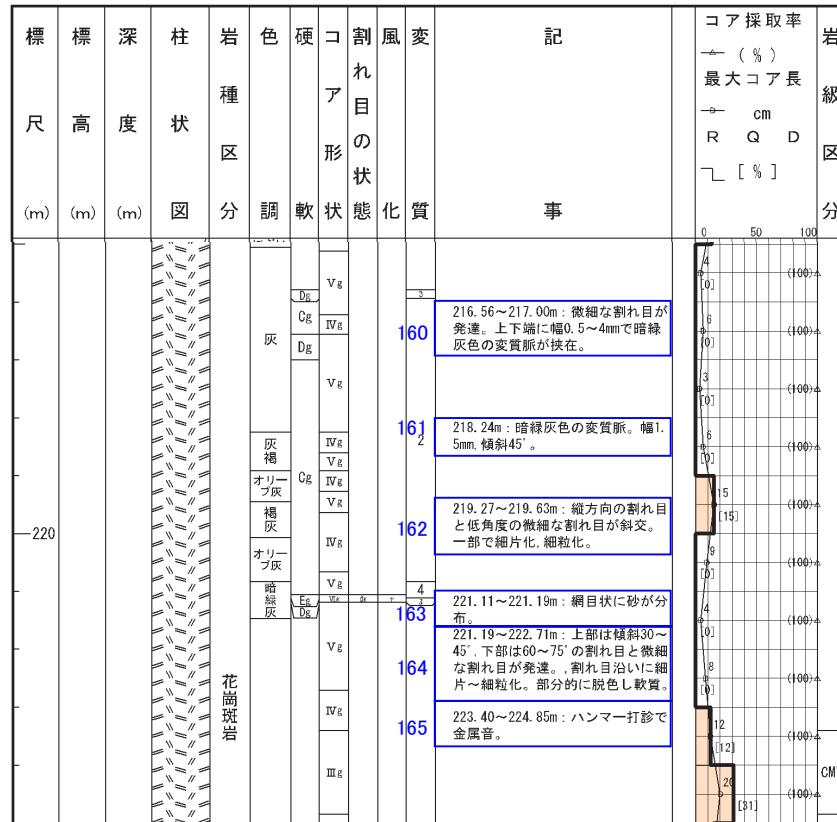
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
156	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
157	・砂混りシルトを挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
158	・色調については、補足的なものであるため削除。
159	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・細片化しているが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

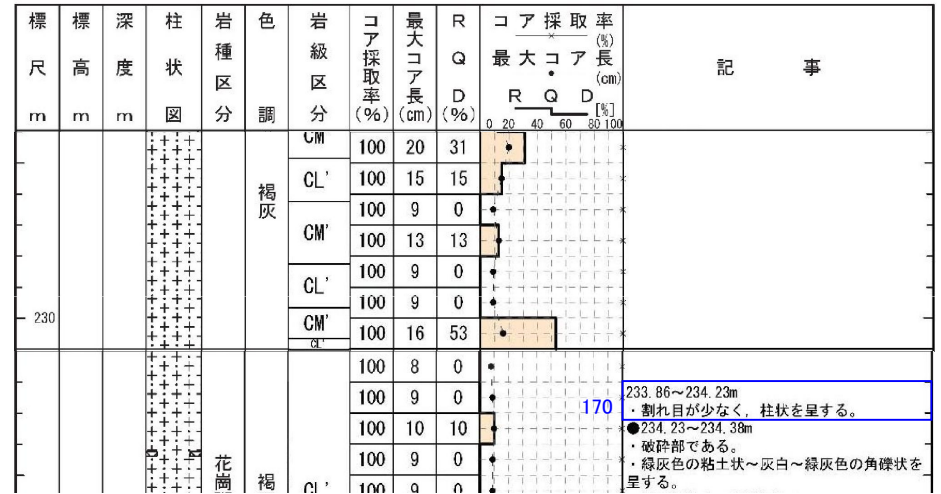
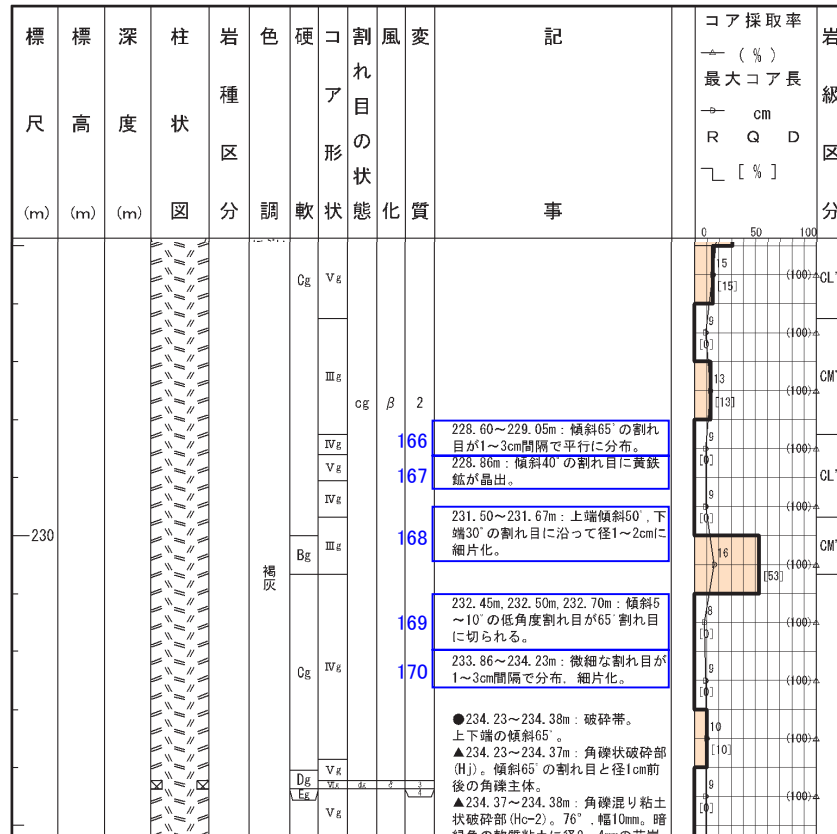
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
160	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・変質脈については、補足的なものであるため削除。
161	・変質脈については、補足的なものであるため削除。
162	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部で細片化、細粒化するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
163	・砂を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。
164	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・一部で細片~細粒化を伴い軟質化しているが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
165	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

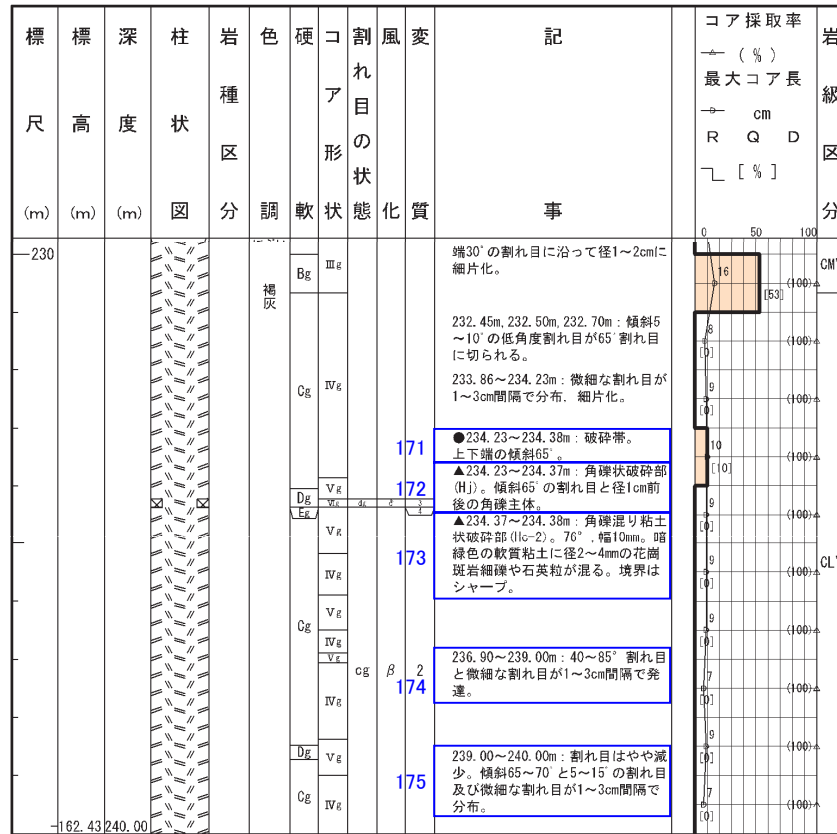
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
166	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
167	・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
168	・細片化しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。
169	・低角度割れ目を切る65°の割れ目が見られるが、低角度割れ目の変位がないため削除。
170	・割れ目の発達については、“コア形状”欄に基づき記載。 ・「割れ目が少なく、柱状」は、「割れ目が多く、角礫状」の誤り。 ^{※1}

報告書作成用柱状図
(H26年9月)

申請書用柱状図



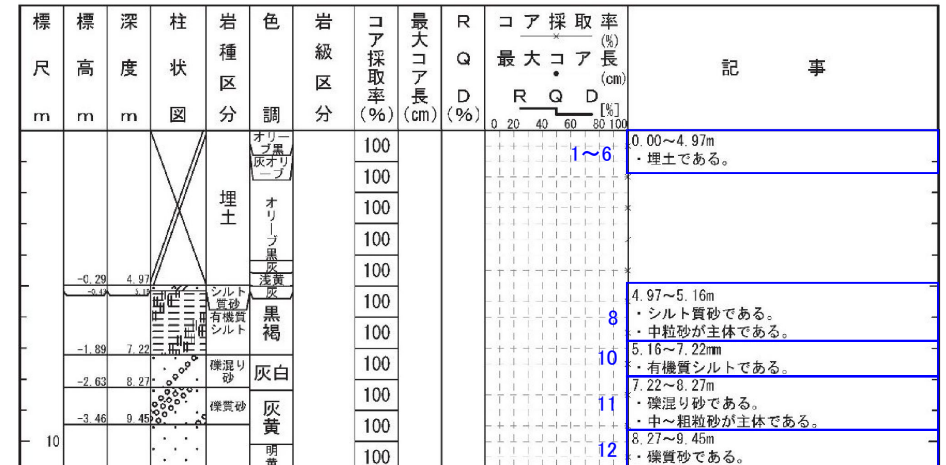
記事	報告書作成用柱状図(H26年9月)⇒申請書用柱状図
171~173	<ul style="list-style-type: none"> 色調、粒度、累計幅について、申請前までに別途行っていた、地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破碎部の再観察の結果に基づき記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 破碎部の見かけの傾斜については補足的なものであるため、端部で取得したものを除き削除。 径1cm前後の角礫主体、花崗斑岩細礫や石英粒が混じる、境界はシャープとの記載については、補足的なものであるため削除。
174	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
175	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。

H24-B8-22

余白

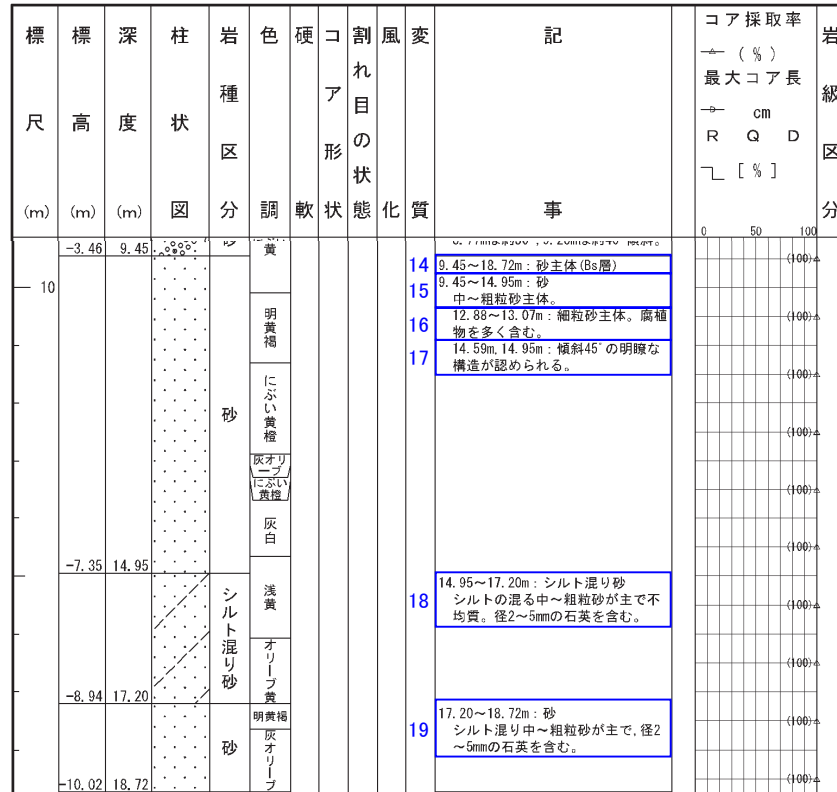
報告書作成用柱状図
(H26年10月)

申請書用柱状図

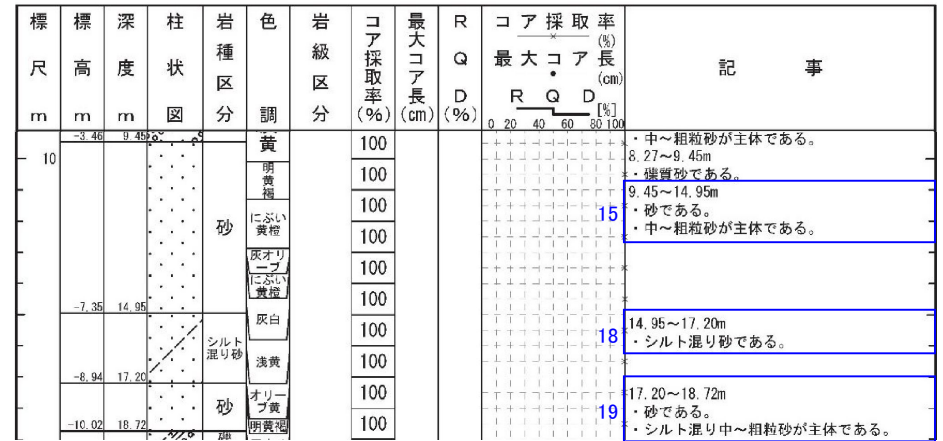


記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
1~6	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
7	・区間毎の性状を個別に記載しているため、有機質シルト及び礫質砂主体とのまとめ書きについては削除。
8, 9	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、下位層と区別できる特徴として、中粒砂主体であることを記載。
10	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・5.16~7.22mmは5.16~7.22mの誤り。※2
11	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、下位層と区別できる特徴として、中~粗粒砂主体であることを記載。
12, 13	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)



申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
14	・区間毎の性状を個別に記載しているため、砂主体とのまとめ書きについては削除。
15～17	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、中～粗粒砂主体であることを記載。
18	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
19	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層に比べ顕著ではないが、若干のシルトを含むことから、シルト混りと記載し、補足的に砂の粒度として、中～粗粒砂も記載。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分
20	-10.02	18.72		礫混りシルト質砂	浅黄 オリーブ灰					20 18.72~30.25m: 礫混りシルト質砂主体 (Bsm層)	100	100	
	21 18.72~22.45m: 礫混りシルト質砂 中~粗粒砂が主で不均質。径2~10mm程度の石英、長石及び花崗斑岩垂直角礫を数~10%程度含む。	100								100			
	22 20.20~20.42m: 貝殻片散在。	100								100			
	23 22.45~24.09m: 礫・砂質シルト 細粒砂が混入するシルトが主で、中粒砂や径2~5mmの石英角礫が全体に混入。微細な貝殻片が多い。	100								100			
	24 24.09~25.51m: 礫混りシルト質砂 シルト質細~中粒砂が主で、径2~5mmの石英がわずかに混入。一部で貝殻片集中。上端28cmは上方細粒化した細粒砂。	100								100			
	25 25.51~27.25m: 礫混り砂質シルト シルトを主とし全体に細~中粒砂、径2~5mmの石英、貝殻片が混入し種物片が散在。25.81m以浅では砂質シルト。	100								100			
	-12.65	22.45		礫・砂質シルト	暗緑灰				23 22.45~24.09m: 礫・砂質シルト 細粒砂が混入するシルトが主で、中粒砂や径2~5mmの石英角礫が全体に混入。微細な貝殻片が多い。	100	100		
	-13.81	24.09							24 24.09~25.51m: 礫混りシルト質砂 シルト質細~中粒砂が主で、径2~5mmの石英がわずかに混入。一部で貝殻片集中。上端28cmは上方細粒化した細粒砂。	100	100		
	-14.82	25.51							25 25.51~27.25m: 礫混り砂質シルト シルトを主とし全体に細~中粒砂、径2~5mmの石英、貝殻片が混入し種物片が散在。25.81m以浅では砂質シルト。	100	100		
	-16.05	27.25							27.25~27.94m: シルト質砂 細粒砂が主で、シルト及び中粒砂が全体に混入。貝殻を多量に含む。	100	100		

申請書用柱状図

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事	
20	-10.02	18.72		礫混りシルト質砂	明黄強 灰オリーブ 浅黄 オリーブ灰 暗オリーブ灰		100	100				21 18.72~22.45m: シルト混り中~粗粒砂が主体である。 ・礫混りシルト質砂である。	
		-12.65					22.45	100				100	23 22.45~24.09m: 礫・砂質シルトである。
		-13.81					24.09	100				100	24 24.09~25.51m: 礫混りシルト質砂である。
		-14.82					25.51	100				100	25 25.51~27.25m: 礫混り砂質シルトである。
		-16.05					27.25	100				100	

記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
20	・区間毎の性状を個別に記載しているため、礫混りシルト質砂主体とのまとめ書きについては削除。
21, 22	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
23	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
24	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
25	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

申請書用柱状図

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分
	-16.05	27.25		礫混り砂質シルト						26 27.25~27.94m: シルト質砂 細粒砂が主で、シルト及び中粒砂が全体に混入。貝殻を多量に含む。	100		
	-16.54	27.94		シルト質砂	暗緑					27 27.94~29.29m: 礫・シルト質砂 植物片が点在。下部は礫・シルト分が少なくなる。 28.42m付近にのみ貝殻片が混入。	100		
	-17.49	29.29		礫質砂						28 29.29~30.25m: 礫質砂 中~粗粒砂が主で、径2~5mm程度の石英を30%程度含む。	100		
30	-18.17	30.25		有機質砂	黒褐色					29 30.25~31.04m: 有機質砂 細粒砂~中粒砂が主で径2~5mmの石英が混入。下部は径50mmの礫が分布。31.08mに有機物が濃集。	100		
	-18.73	31.04		礫混り砂	灰					30 31.04~32.00m: 礫混り砂 細~中粒砂が主で径2~4mmの細礫が混る。下部は礫質で径50mmの垂円礫を含む。 31.08m付近: 有機物が混る。	100		
	-19.41	32.00		砂	灰白					31 32.00~33.95m: 砂 細~中粒砂が主で部分的にシルト、粗粒砂が混る。	100		
	-20.79	33.95		礫質砂	灰					32 32.05~32.27m: 有機物が混入する	100		
	-21.94	35.58		明礫						33 33.95~35.58mm: 礫質砂 細~粗粒砂が主で径2~10mmの垂角礫を含む。礫率20~30%。 33.95~34.16m: 礫が多い。 34.16~34.35m: 細粒砂主体。	100		

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事
	-16.05	27.25		シルト質砂	灰		100					26 27.25~27.94m ・シルト質砂である。
	-16.54	27.94		礫混り砂	暗緑		100					27 27.94~29.29m ・礫・シルト質砂である。
30	-17.49	29.29		礫質砂			100					28 29.29~30.25m ・礫質砂である。 ・中~粗粒砂が主体である。
	-18.17	30.25		有機質砂	黒褐色		100					30 30.25~31.04m ・有機質砂である。 ・中~粗粒砂が主体である。
	-18.73	31.04		礫混り砂	灰		100					31 31.04~32.00m ・礫混り砂である。
	-19.41	32.00		砂	灰白		100					32 32.00~33.95m ・砂である。
	-20.79	33.95		礫質砂	灰		100					33 33.95~35.58mm ・礫質砂である。 ・細~粗粒砂が主体である。
	-21.94	35.58		明礫	明褐色 に多い 黄褐色 赤褐色 灰オリブ		100					35.58~42.82m ・砂礫である。

記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
26	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
27	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
28	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、中~粗粒砂主体であることを記載。
29	・区間毎の性状を個別に記載しているため、礫質土主体とのまとめ書きについては削除。
30	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、細粒砂~中粒砂主体であることを記載。
31	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
32	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
33	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、細~粗粒砂主体であることを記載。 ・33.95~35.58mmは33.95~35.58mの誤り。※2

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

申請書用柱状図

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分
40	-21.94	35.58	[Columnar diagram showing soil and gravel layers]	砂礫	明褐灰					33.95~34.16m: 礫が多い。 34.16~34.35m: 細粒砂主体。	(100)		
										35.58~46.84m: 砂礫主体 (Csg1層)	(100)		
										35.58~37.45m: 礫は径5~100mm (最大200mm)の亜角礫が主で基質は有機物・シルト混りの不均質な砂からなる。礫率50~70%。	(100)		
										37.45~39.66m: 径2~30mm (最大50mm)の亜角~亜円礫が主。基質は細~粗粒砂からなり、全体的に酸化汚染を受ける。	(100)		
										39.66~42.82m: 径2~30mm (最大180mm)の亜角~亜円礫が主。基質は細~粗粒砂からなり不均質。全体的に酸化鉄汚染を受ける。礫種は花崗斑岩が主。径100mmを超える礫は礫質が多い。	(100)		
										40.55~40.70m: 粗粒砂~礫混り粗粒砂。黒色の炭化物が混入。	(100)		
										41.42~41.52m: 有機物混入。	(100)		
										42.82~46.84m: 礫質砂 細~粗粒砂からなる不均質な砂で、径5~40mm (最大150mm)の亜角礫が混る。礫率20~30%。最大約5%。細礫は石英粒子主体。	(100)		
										44.08~45.14m: 礫率数%で上下より礫量が減少した中粒砂が主の礫混り砂。	(100)		
										46.72~46.84m: 均質な細粒砂。	(100)		
	-27.06	42.82	砂礫	灰オリーブ						(100)			
	-29.90	46.84	礫質砂	灰白						(100)			
										(100)			
										(100)			
										(100)			
										(100)			
										(100)			
										(100)			

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	記事
	-21.94	35.58	[Columnar diagram showing soil and gravel layers]	砂礫	明褐灰 褐灰 にぶい黄緑 灰オリーブ		100					33.95~35.58m ・礫質砂である。 ・細~粗粒砂が主体である。
							100				35~37	35.58~42.82m ・砂礫である。
							100					
							100					
							100					
							100					
							100					
							100					
							100					
							100					
	-27.06	42.82	砂礫	灰オリーブ								
			礫質砂	灰白							38 42.82~46.84m ・礫質砂である。	
	-29.90	46.84		黄灰								

記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
34	・区間毎の性状を個別に記載しているため、砂礫主体とのまとめ書きについては削除。
35~37	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
38	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

申請書用柱状図

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分
50	-29.90	46.84			灰					39	46.84~51.21m: 砂及び礫質砂(Ga12層)		
	-30.63	47.87		木片	黒褐					40	46.84~47.87m: 木片 部分的にシルト・砂・礫が混る。		
	-31.54	49.16		礫質砂	灰					41	47.87~49.16m: 礫質砂 細~粗粒砂からなる不均質な砂で、全体に径2~10mmの角~垂角礫が10~20%混る。径2~5mmの石英が細礫として多く分布。		
	-32.99	51.21		砂	灰					42	49.16~51.21m: 砂 49.16~49.55m: 径2~5mmの石英粒が混る中~粗粒砂。 49.55~51.21m: 細~中粒砂からなり部分的に径2~5mmの細礫が混入。有機物が点在。		
	-34.49	53.33		砂礫	黄褐					43	51.21~63.86m: 砂礫主体(Csg2層)		
					灰					44	51.21~53.33m: 砂礫 礫は径2~30mm(最大径60mm)の垂角~垂円礫で、礫種は花崗斑岩の風化礫が主。基質は細粒砂~粗粒砂。礫率60~70%。 53.33~54.57m: 礫混り砂 砂は中~粗粒砂が主。礫は径5~10		

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記	事
50	-29.90	46.84			灰		100								
	-30.63	47.87		木片	黒褐		100					40	46.84~47.87m ・木片を含む。		
	-31.54	49.16		礫質砂	灰		100					41	47.87~49.16m ・礫質砂である。 ・細~粗粒砂からなる不均質な砂が主体である。		
	-32.99	51.21		砂	灰		100					42	49.16~51.21m ・砂である。		
	-34.49	53.33		砂礫	黄褐		100					44	51.21~53.33m ・砂礫である。 ・径2~30mm(最大径60mm)の垂角~垂円礫を含む。		
	-35.37	54.57		礫混り砂	浅黄		100						53.33~54.57m ・礫混り砂である。 ・中~粗粒砂が主体である。		
	-35.83	55.22		シルト混り砂	灰		100						54.57~55.22m ・シルト混り砂である。		
				砂礫	明黄褐		100						55.22~59.93m ・砂礫である。		
60	-39.16	59.93			灰		100								

記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
39	・区間毎の性状を個別に記載しているため、砂及び礫質砂主体とのまとめ書きについては削除。
40	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
41	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、下位層と区別できる特徴として、細~粗粒砂からなる不均質な砂主体であることを記載。
42	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
43	・区間毎の性状を個別に記載しているため、砂礫主体とのまとめ書きについては削除。
44	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・周囲に比べ含まれる礫が大きく、目立つことから、礫の特徴として、礫径、円磨度を記載。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

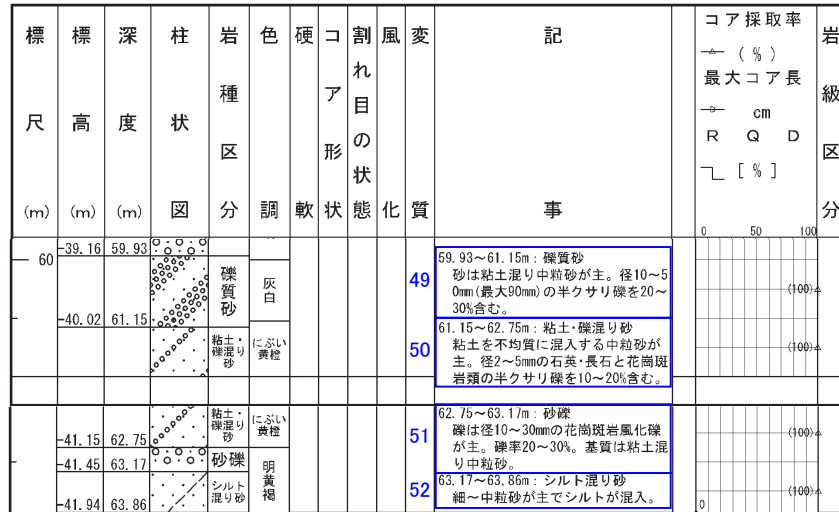
申請書用柱状図

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分
-34.49	53.33			礫混り砂	灰黄					53.33~54.57m: 礫混り砂 砂は中~粗粒砂が主。礫は径5~10mmの垂角礫が主。礫種は石英を主としてカリ長石、花崗閃岩が分布。不均質でやや締りが悪い。	0		
-35.37	54.57			シルト混り砂	灰白					54.57~55.22m: シルト混り砂 細~中粒砂が主で不均質にシルトが混る。40~45°の葉理が分布。	50		
-35.83	55.22			砂礫	にがい黄橙					55.22~59.93m: 砂礫 55.22~56.22m: 礫は径2~8mmの石英と径5~50mm(最大90mm)の垂角~垂円礫。礫率40~50%程度。基質はシルト混り中~粗粒砂。全体に不均質。	100		
-39.16	59.93			砂礫	黄褐					56.22~59.93m: 礫は径10~40mm(最大90mm)の花崗閃岩角~垂角礫。礫率30~40%程度。礫は風化で褐~黄褐色を帯びるが硬質礫が主。基質は中粒砂が主で細粒砂~細礫を混入し不均質。	100		

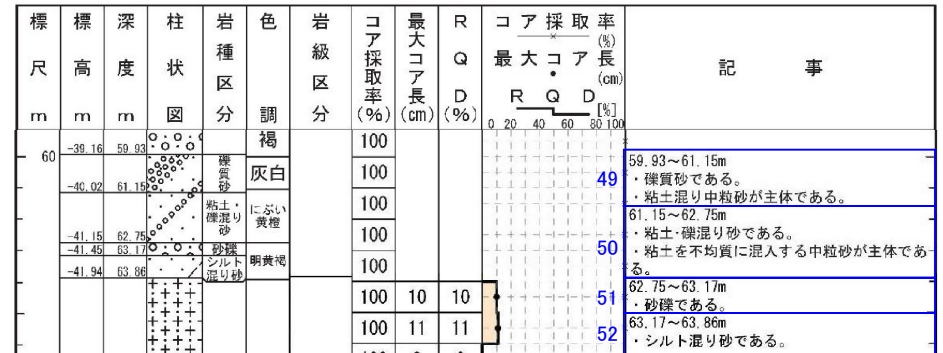
標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
-34.49	53.33			礫混り砂	浅黄		100					・径2~30mm(最大径60mm)の垂角~垂円礫を含む。
-35.37	54.57			シルト混り砂	黄褐		100			45		53.33~54.57m ・礫混り砂である。
-35.83	55.22			砂礫	灰白		100			46		54.57~55.22m ・中~粗粒砂が主体である。
				砂礫	にがい黄橙		100			47, 48		55.22~59.93m ・シルト混り砂である。
				砂礫	黄褐		100					59.93~61.15m ・砂礫である。

記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
45	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、下位層と区別できる特徴として、中~粗粒砂主体であることを記載。
46	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・葉理については、シルトの不均質な分布を反映して不明瞭であることから削除。
47, 48	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)



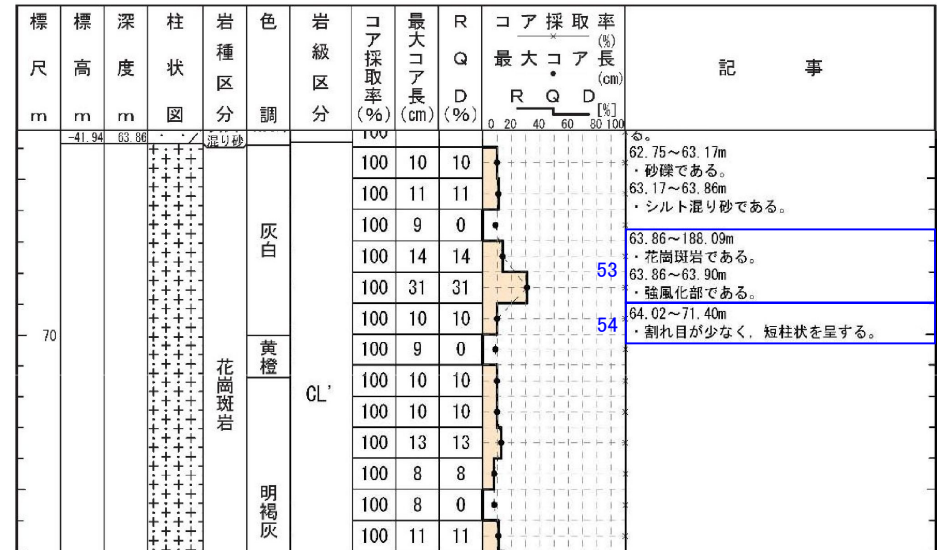
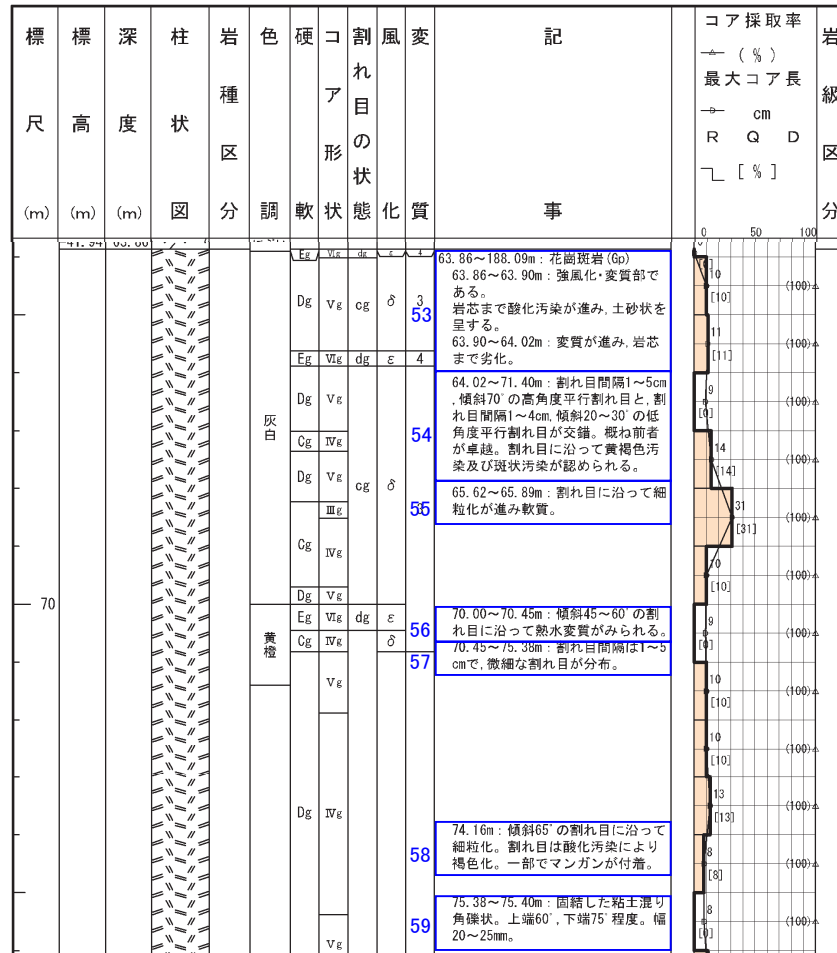
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
49	<ul style="list-style-type: none"> ・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・下位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、下位層と区別できる特徴として、粘土混り中粒砂主体であることを記載。
50	<ul style="list-style-type: none"> ・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。 ・上位層との境界付近では、粒度の違いが見かけ上顕著ではないため、上位層と区別できる特徴として、粘土を不均質に混入する中粒砂主体であることを記載。
51	<ul style="list-style-type: none"> ・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。
52	<ul style="list-style-type: none"> ・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“岩種区分”欄に対応した層相名を記載。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

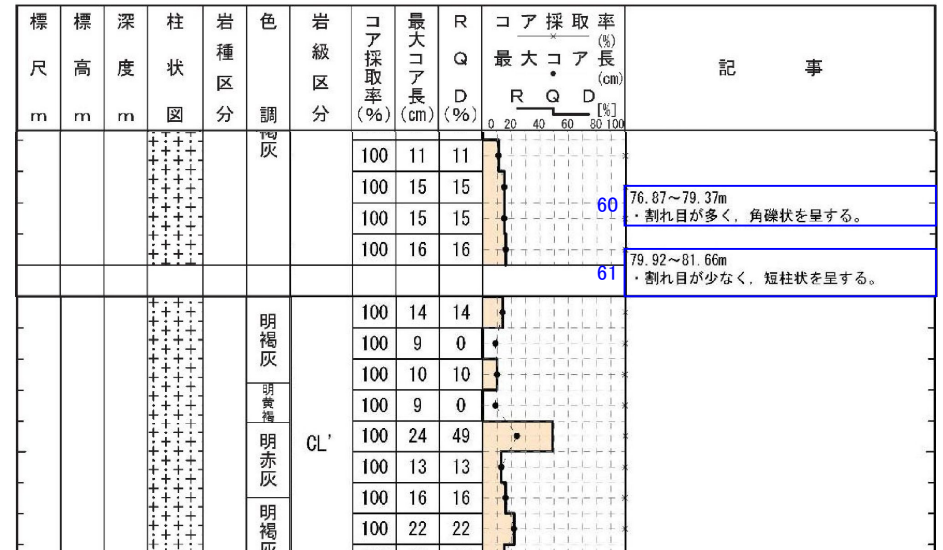
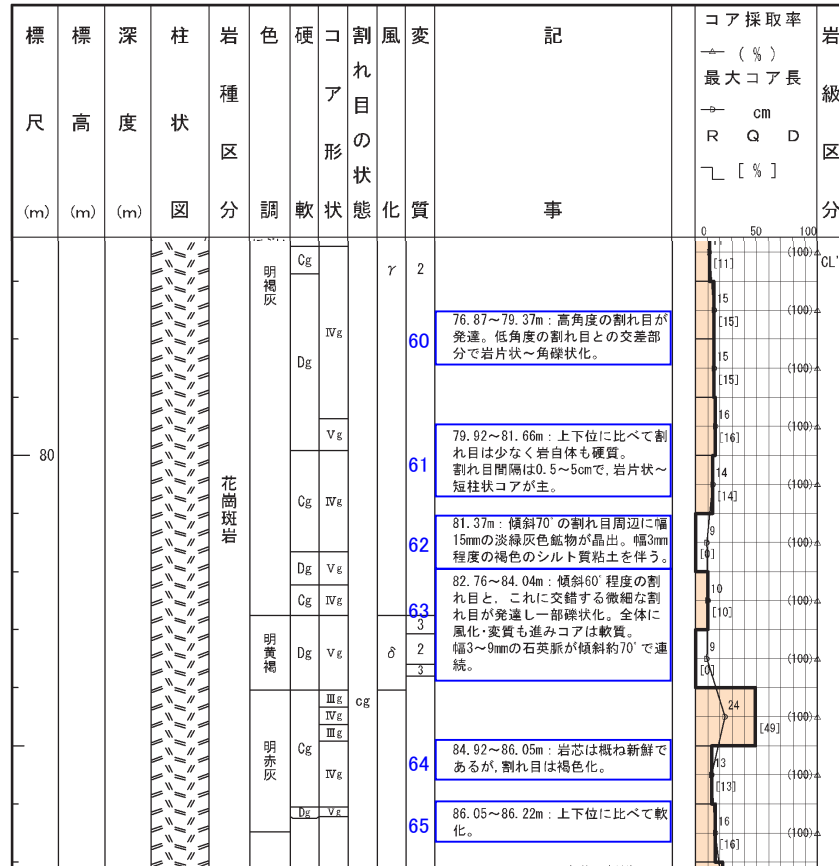
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
53	・風化を伴う岩盤の劣化については、岩級区分で示しているため、詳細については削除(酸化汚染、土砂状)。 ・63.90~64.02mの変質の程度については、周囲と明瞭な差が認められないため削除。
54	・割れ目の発達については、“コア形状”欄に基づき短柱状と記載。 ・割れ目沿いの汚染の記載については、補足的なものであるため削除。
55	・割れ目沿いに細粒化し軟質となるが、掘削時の機械割れと判断し削除。
56	・割れ目沿いに変質し劣化するが、前後の岩質に差はないこと、割れ目は連続性や直線性に乏しく、系統的な配列等も認められないことから削除。
57	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
58	・細粒化しているが、掘削時の機械割れと判断し削除。
59	・粘土混り角礫状を呈するが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

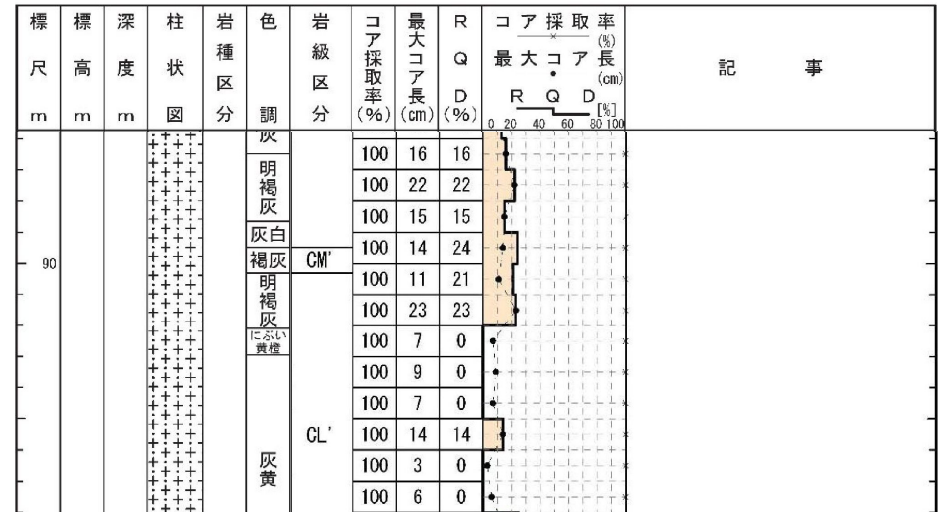
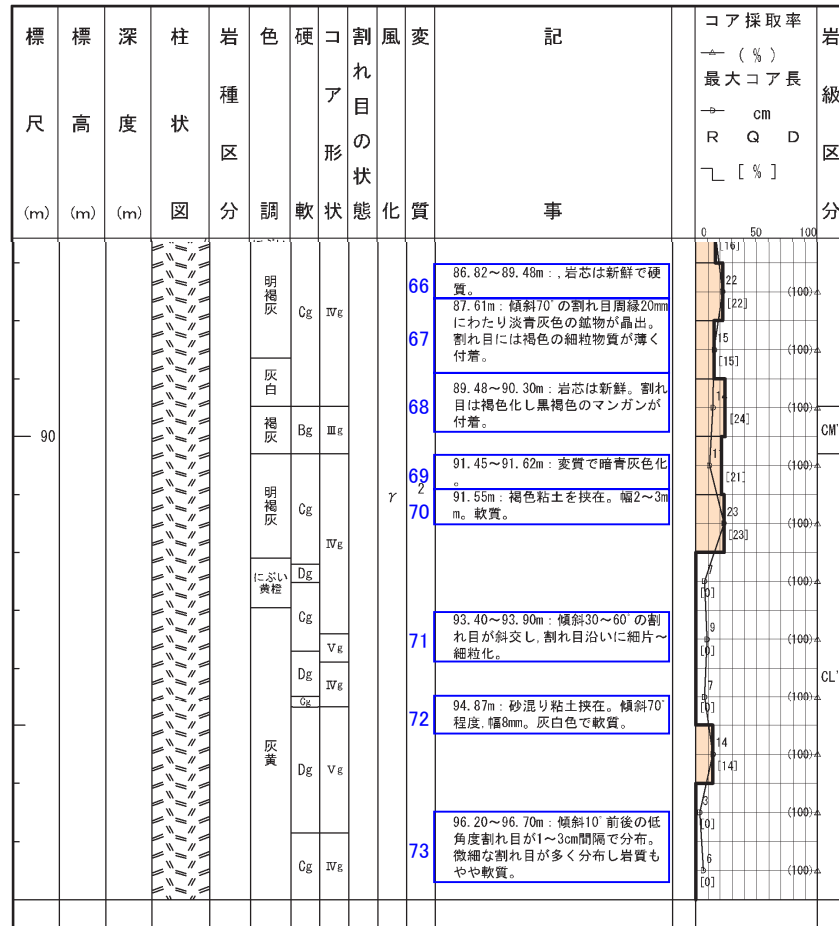
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
60	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
61	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。 ・“コア形状”欄に基づき短柱状と記載。
62	・シルト質粘土を挟み込むが、幅狭く、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
63	・硬軟や割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いに礫状化するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・鉱物脈については補足的なものであるため削除。
64	・割れ目沿いの褐色化については、補足的なものであるため削除。
65	・硬軟の程度については、岩級区分で示しているため削除。

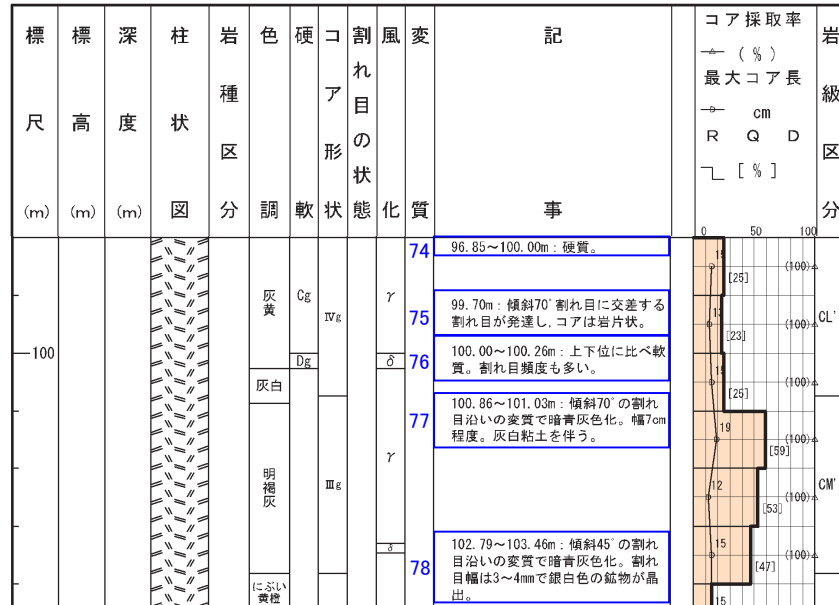
報告書作成用柱状図
(H26年10月)

申請書用柱状図

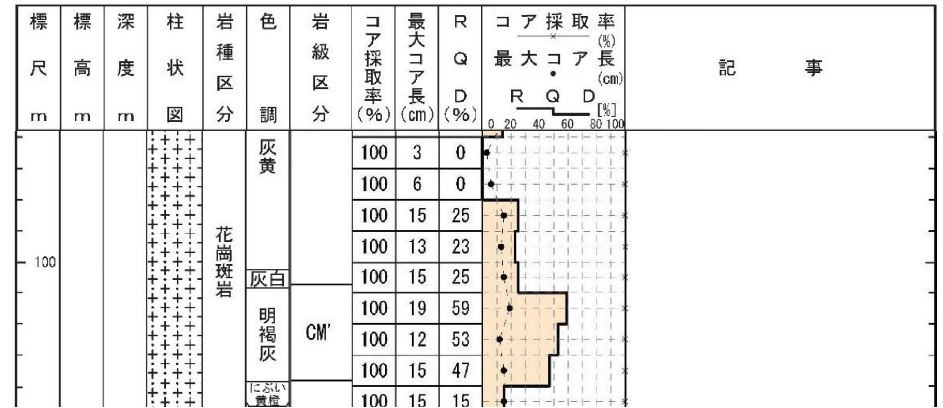


記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
66	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
67	・割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
68	・割れ目沿いの変色、マンガンについては、補足的なものであるため削除。
69	・変色については、補足的なものであるため削除。
70	・粘土を挟在するが、幅狭く、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
71	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
72	・粘土を挟在するが、直線性や連続性に乏しいことから削除。
73	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)



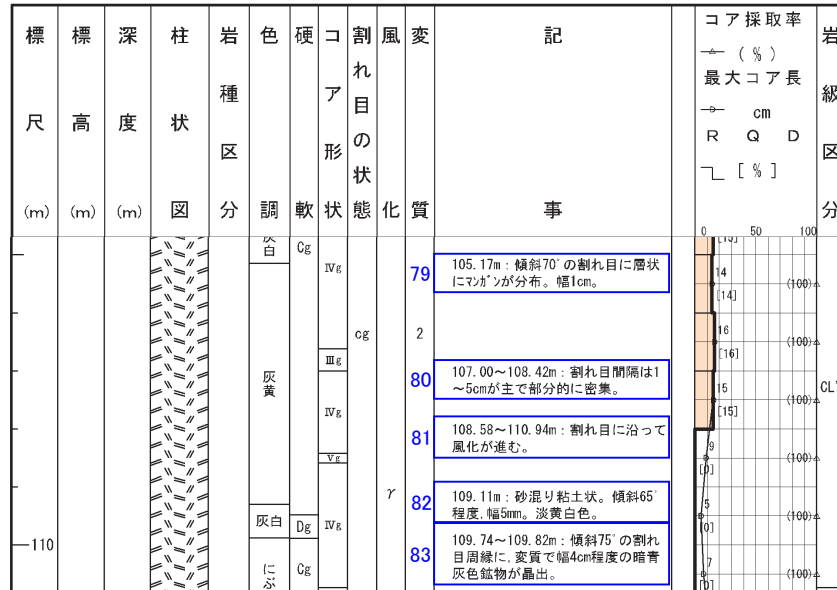
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
74	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
75	・割れ目の発達の程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
76	・硬軟や割れ目の発達の程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
77	・粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。
78	・割れ目沿いの変色や鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

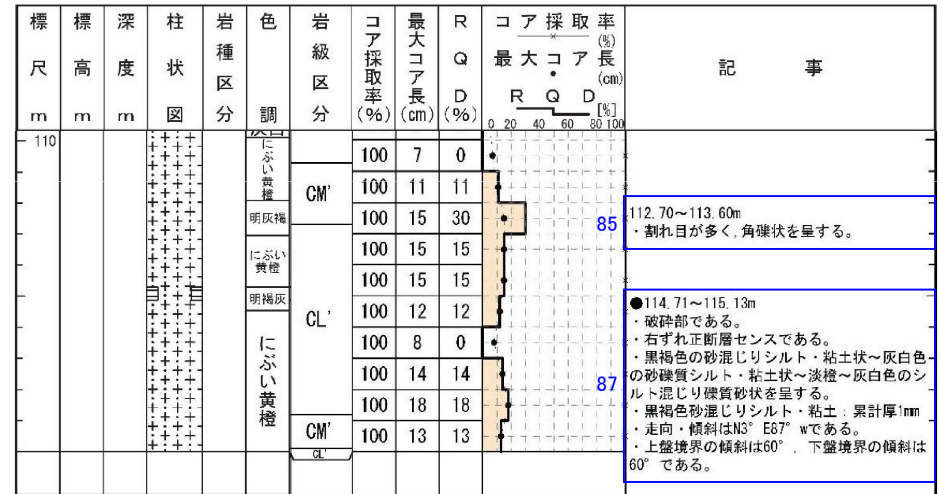
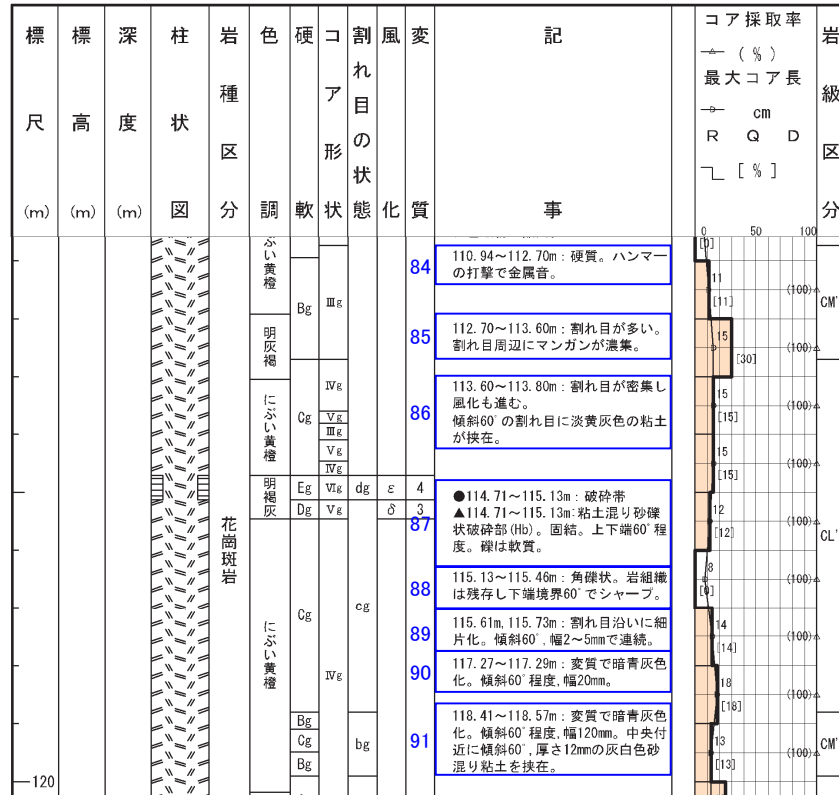
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
79	・割れ目沿いのマンガンについては、補足的なものであるため削除。
80	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
81	・風化を伴う岩盤の劣化については、岩級区分で示しているため削除。
82	・砂混り粘土状を呈するが、粘土の直線性や連続性に乏しいことから削除。
83	・割れ目沿いの変色や鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。

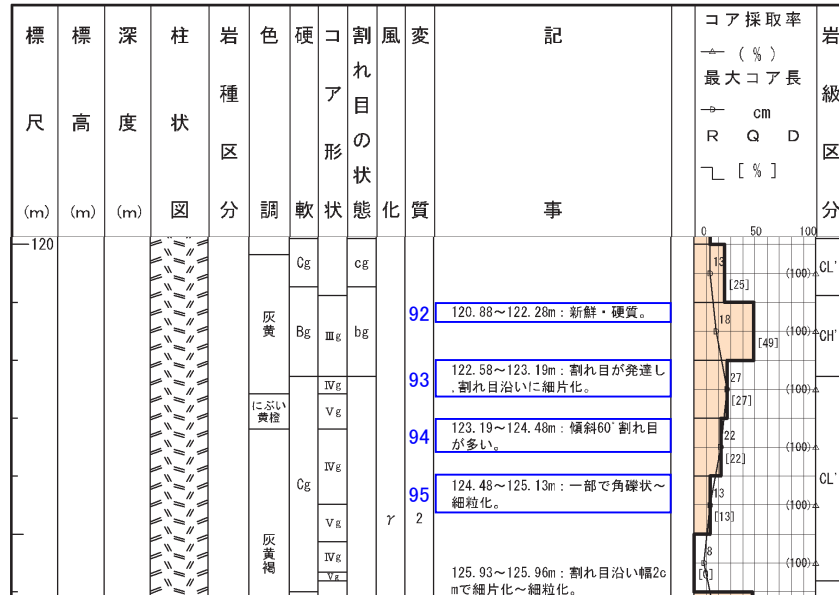
報告書作成用柱状図
(H26年10月)

申請書用柱状図

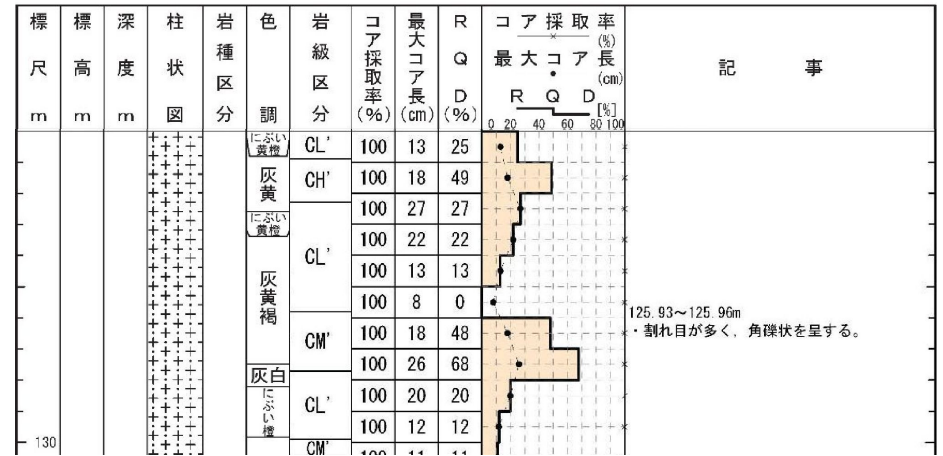


記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
84	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
85	・“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
86	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 ・粘土を挟在するが、直線性や連続性に乏しいことから削除。
87	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・色調, 粒度, 累計幅について、申請前までに別途行っていた。地盤安定解析用の物性値設定を目的とした破碎部の再観察の結果に基づき記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・砂礫状部の礫の硬軟の記載は補足的なものであるため、礫は軟質との記載については削除。
88	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
89	・割れ目沿いに細片化しているが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
90	・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。
91	・粘土を挟在するが、直線性や連続性に乏しいことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)



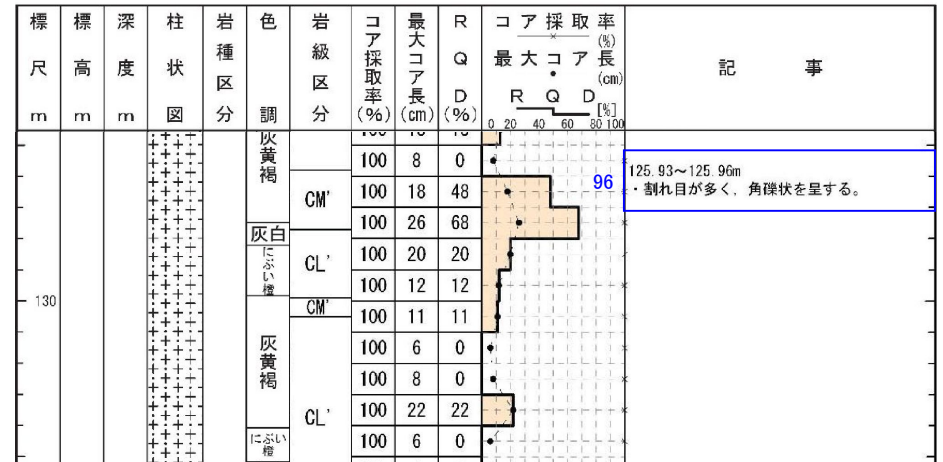
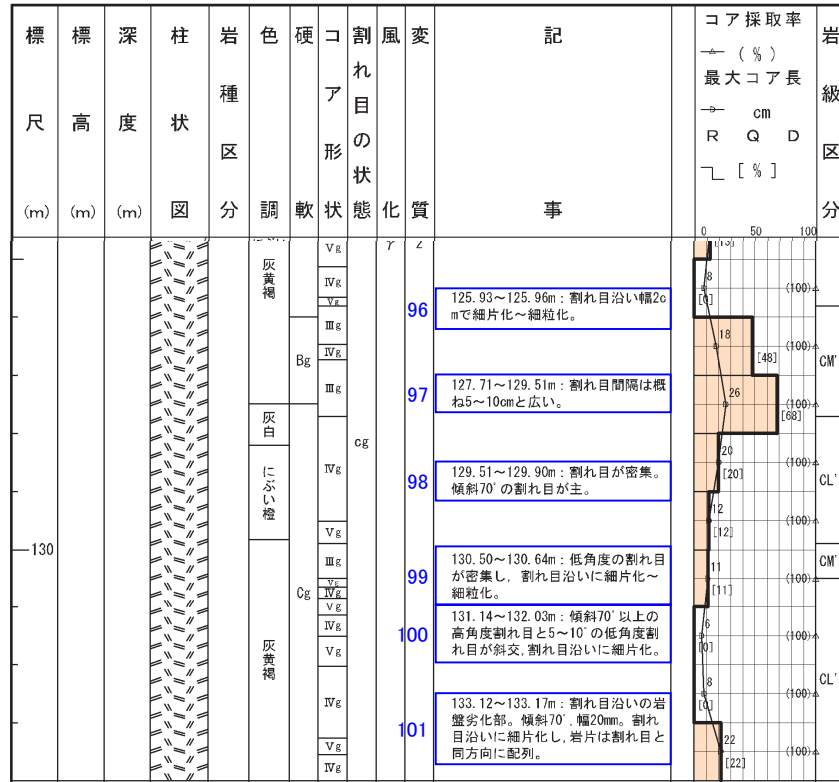
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
92	・硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
93	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
94	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
95	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

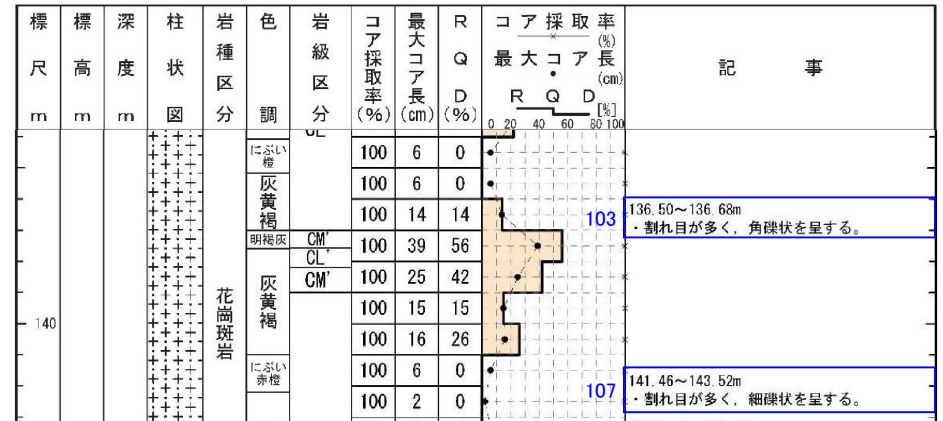
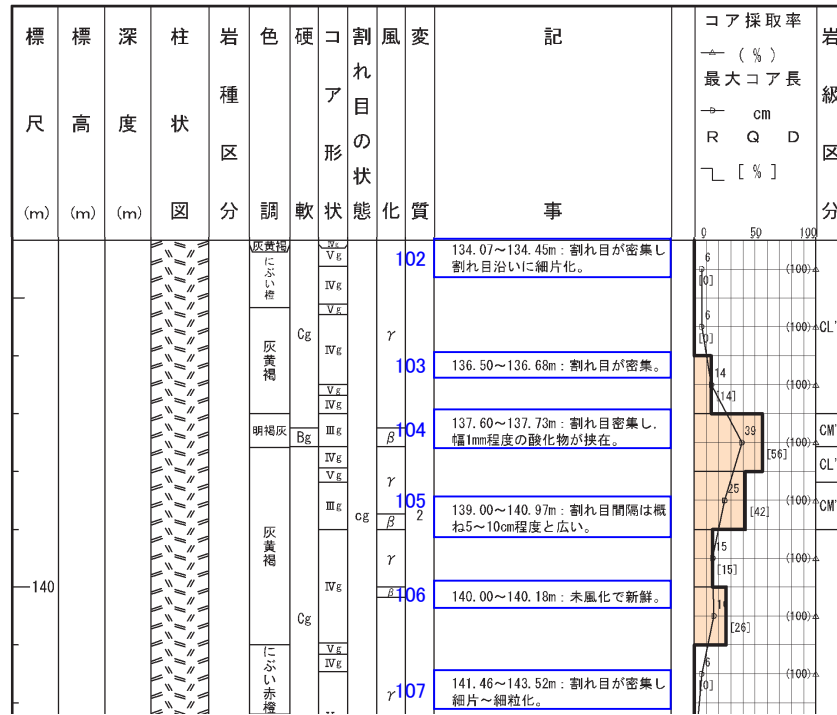
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
96	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。 細粒化については、掘削時の機械割れと判断し削除。
97~101	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 割れ目治いの細片化, 細粒化については、当該区間の周囲と明瞭な差が認められないため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

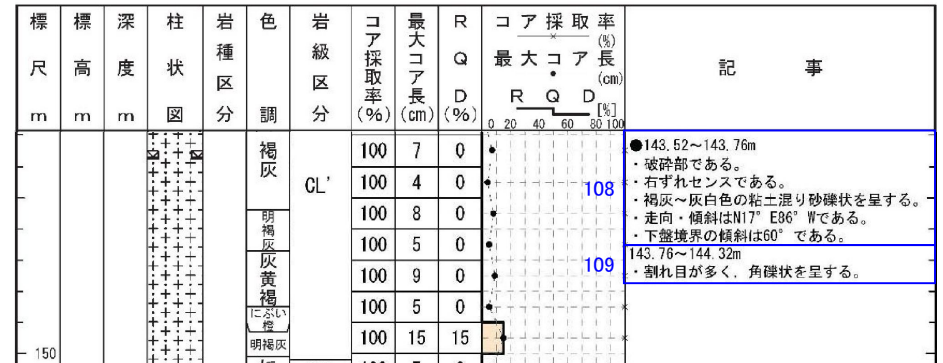
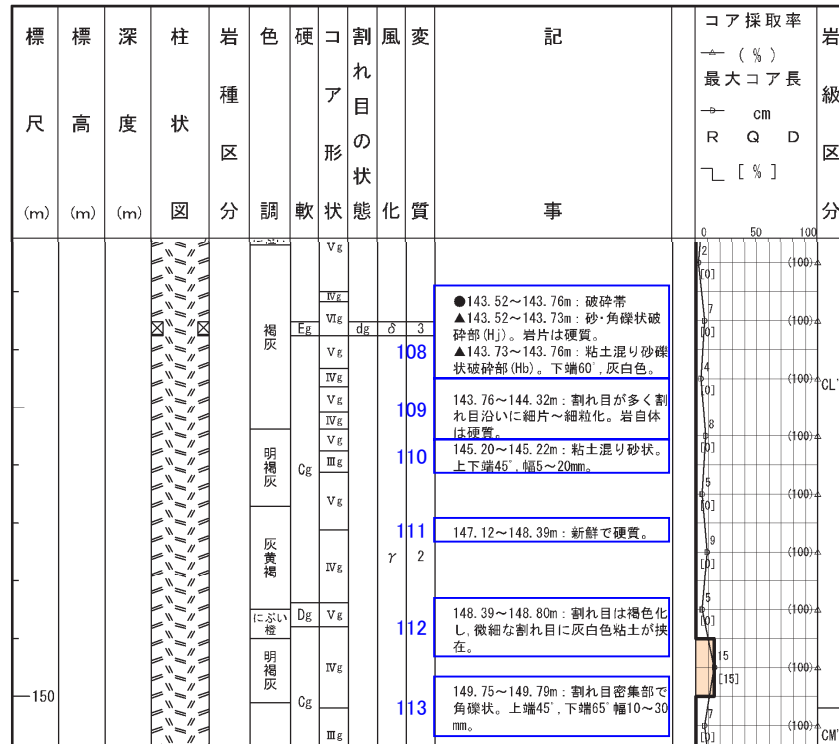
申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
102	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目の発達の数値については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いの細片化, 細粒化については、当該区間の周囲と明確な差が認められないため削除。
103	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目の発達の数値については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
104	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目の発達の数値については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 ・酸化物の挟在については、補足的なものであるため削除。
105	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目の発達の数値については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
106	<ul style="list-style-type: none"> ・風化を伴う岩盤の劣化の数値については、岩級区分で示しているため削除。
107	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目の発達の数値については、“コア形状”欄に基づき細礫状と記載。

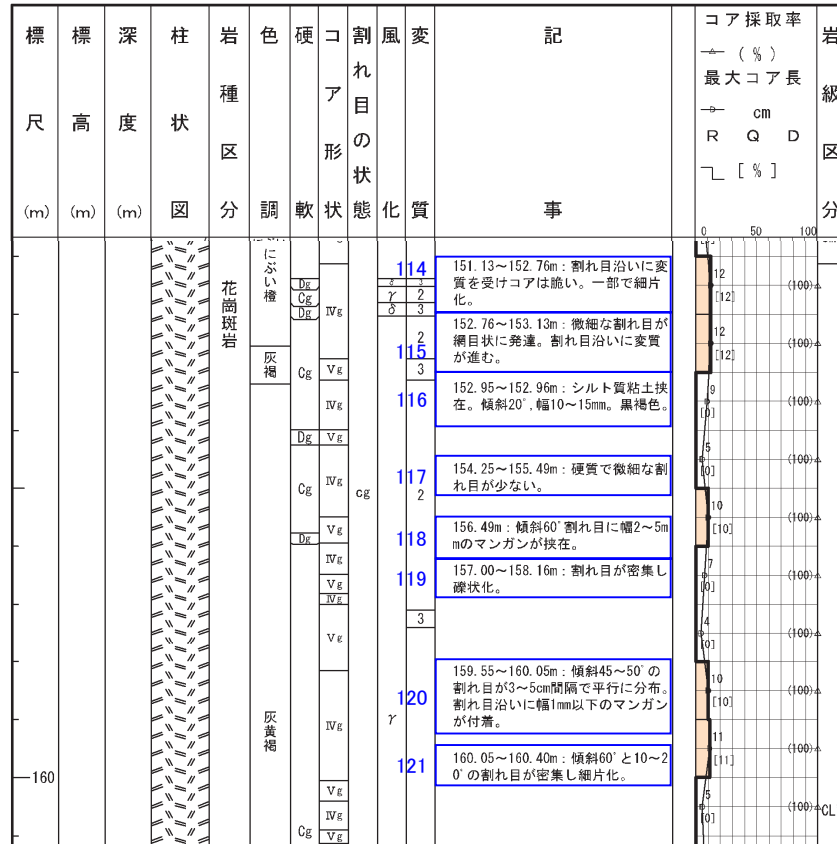
報告書作成用柱状図
(H26年10月)

申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
108	<ul style="list-style-type: none"> 薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 表現の見直し(砂・角礫状及び粘土混り砂礫状→粘土混り砂礫状) “色調”欄に基づき褐灰と記載。 ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 砂・角礫状部の岩片の硬軟は補足的なものであるため、岩片は硬質との記載については削除。
109	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
110	<ul style="list-style-type: none"> 粘土混り砂状を呈するが、連続性や直線性に乏しいことから削除。
111	<ul style="list-style-type: none"> 硬軟については、岩級区分で示しているため削除。
112	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目に粘土を挟在するが、連続性に乏しいことから削除。
113	<ul style="list-style-type: none"> 角礫状を呈するが、連続性に乏しいことから削除。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)

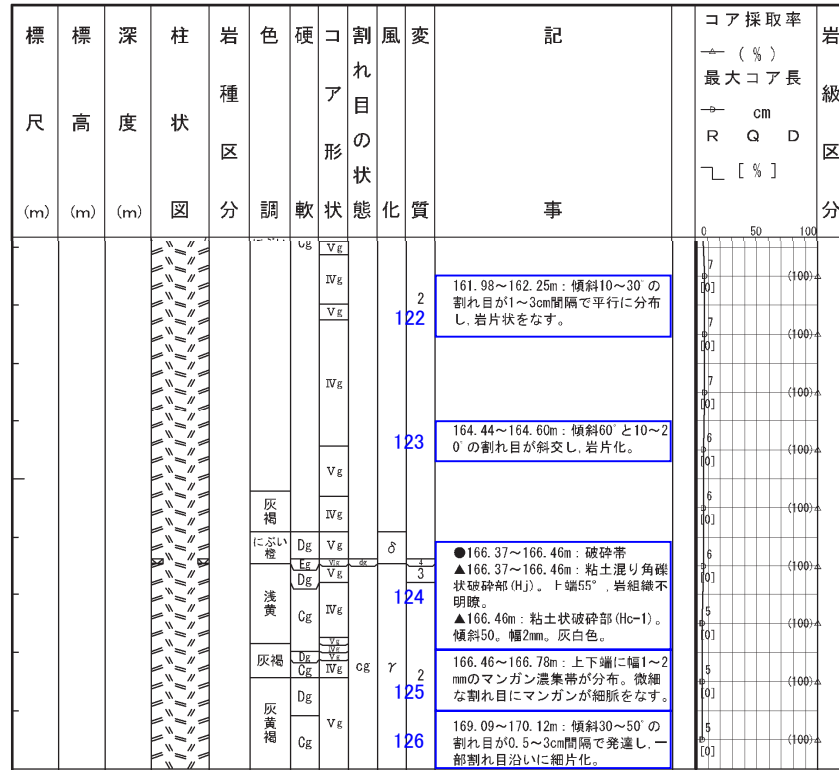


申請書用柱状図

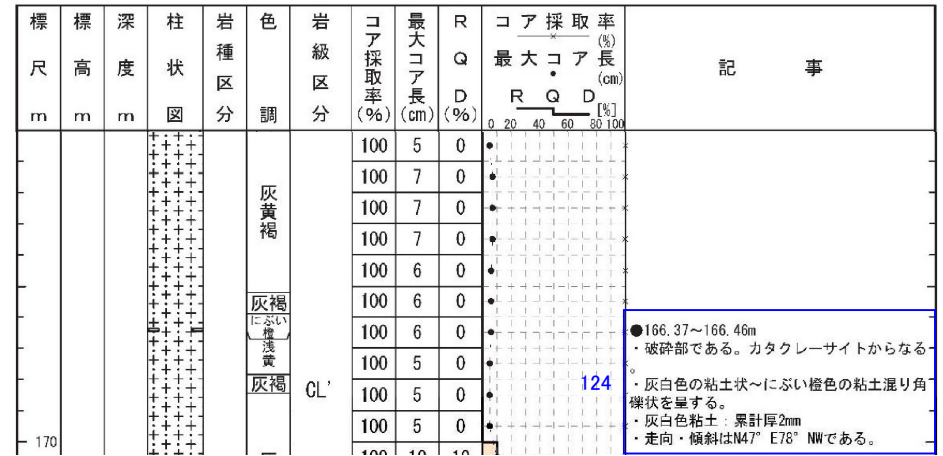


記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
114	・脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
115	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・変質の程度については、周囲と明瞭な差が認められないため削除。
116	・シルト質粘土を挟在するが、掘削時の機械割れと判断して削除。
117	・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
118	・マンガンの挟在については、補足的なものであるため削除。
119	・割れ目の発達については、“コア形状”欄に基づき角礫状と記載。
120, 121	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目沿いのマンガンについては、補足的なものであるため削除。

報告書作成用柱状図
(H26年10月)



申請書用柱状図



記事	報告書作成用柱状図(H26年10月)⇒申請書用柱状図
122, 123	・割れ目の発達程度については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。
124	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・“色調”欄に基づき、にぶい橙色と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破碎部の見かけの傾斜については、補足的なものであるため削除。
125	・マンガン濃集については、補足的なものであるため削除。
126	・割れ目沿いに細片化しているが、周囲と明瞭な差が認められないため削除。